

調査報告書第一号

若手山の石造文化財

滝沢村教育委員会



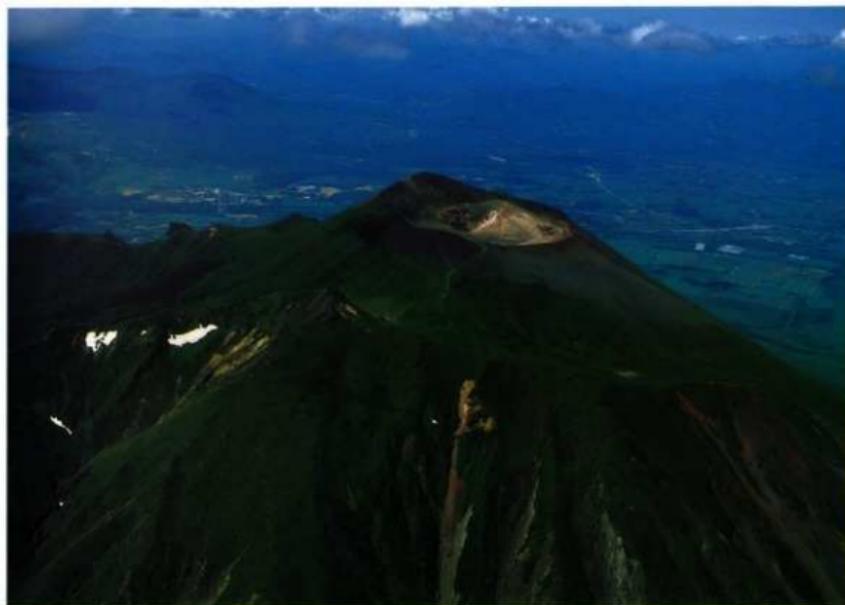
岩手山



お鉢の三十三観音石像と頂上薬師岳



お鉢に立ち並ぶ三十三観音石像



不動平と山頂

岩手山の石造文化財



盛岡講中建立三十三観音第一番如意輪観音像

(岩手山頂お鉢・柳沢口取付地点)

発刊にあたって

わたしたちの祖先が長い歳月をかけて営み、造り、築いてきた文化財は、所有者はもとより社会の貴重な相続財産であり、歴史文化の理解に欠くことのできないものであり、また天然の所産である文化財は、人間の生命と均しく尊重されなければならないと識者はことあるごとに指摘しています。

しかし、近年の技術革新と情報網の発達など急激な社会情勢の変化とともに、わたしたちの住む地域も著しく変化してきており、祖先の人々が長い間培ってきた伝統的な習慣や信仰が薄れてきております。

わたしたちのふるさとを代表する霊峰岩手山は巖鷲山や南部片富士などと呼ばれ、滝沢村はもとより岩手県民にとってシンボリックな存在であり、古来より山岳信仰が盛んであったことを裏付ける数々の石造文化財が現存しています。

このたび幸いにも岩手県立博物館のご協力を得て、この岩手山を有する当村から岩手山の石造文化財について調査を実施し報告書を刊行することができました。

ここに、調査にご協力いただきました岩手県立博物館に感謝申し上げますとともに、ご多忙にもかかわらず執筆と編集、ご指導、ご助言を賜りました岩手県立博物館・主任専門学芸調査員の大矢邦重先生（滝沢村文化財調査委員）に深く感謝申し上げます。

本書が、村民の皆様にも文化財の再認識と郷土理解の促進に資することを期待申し上げます、文化財関係者はもとより山岳関係者など広く活用されることを願ってやみません。

昭和六十一年三月三十一日

滝沢村教育委員会 教育長

高 濱 善太郎

はじめに

岩手山の石仏をはじめて押んだのは昭和五十九年晩秋のことであった。西根町教育委員会の依頼で西根町内全石造文化財調査を実施したときのことである。上坊口から石の祠や道標を調査しながら登り始め、五合目からは新雪を踏みながらの調査となり、お鉢にたどりついて立ち並ぶ三十三観音を拝んだときにはもう下山時刻が迫っていた。やむを得ず翌日も頂上まで登って調査を続けたが、奥宮の調査は西に傾く太風を気にしながらであり、とうとうもう一回登らねばならない羽目になった。このとき調査した数は一七一基である。寒風烈風に吹きさらされながらのお鉢での調査は忘れることができない。

今回は、これに柳沢口、磐石口登山道の調査を加え、総数二四九基の石造文化財を調査し取録することができた。朝な夕なに岩手山の秀峰を仰ぐとき、お山にかくも多数の石碑石仏が建てられていることが、そして、そのひとつひとつの表情が改めて想い起こされる。

岩手山の石造文化財は、建碑が一般的になる江戸後期以降のもので、それほど古いものではない。しかし、石碑石仏は悉皆調査を行えばその後の信仰の歴史を自から語りかけてくれるのである。その意味でもこれらの石造物は文化財として大切にされるべきものなのである。

調査には万全を期したつもりであるが、悪条件下でのこともあって、銘文を読み切れないものもあり、見過してしまつた石碑もあるに違いない。この書を基に補足・追加・訂正がなされるならば幸いである。

岩手山神社宮司小原實徳氏には石碑のほか、岩手山信仰とのかつての状況、登山路の拝所など全般に亘つて懇切な御教示を得た。本書が単なる石碑石仏の報告書にとどまらず、信仰の諸相がある程度浮き出させることに成功したとすれば、それに小原宮司によるところが大きいのである。特に記して感謝の意を表するものである。

また、岩手山石碑調査の端緒を開き、山頂の調査に同行してくれた西根町史編纂係長波辺義光氏、さらには、その後の調査及び報告書刊行を推進してくれた滝沢村教育委員会諸氏ならびに協力者に対し感謝申し上げる次第である。

昭和六十一年二月十日

目次

発行にあたって……………	一	頁
はじめに……………	二	
目次……………	三	
一 調査の概要……………	四	
二 岩手山と岩手山信仰……………	五	
(一) 岩手山……………	五	
(二) 岩手山信仰……………	五	
(三) 岩手山年表……………	八	
三 岩手山の石造文化財……………	一〇	
(一) 造立数・種類……………	一〇	
(二) 造立年代……………	一三	
造立年代順一覧……………	一七	
四 柳沢口の石造文化財……………	二二	
概説……………	二二	
柳沢登山口の祈禱詞……………	二五	
柳沢口の石造文化財一覧……………	二六	
五 山頂の石造文化財……………	三九	
概説……………	三九	
山頂の石造文化財一覧……………	四四	
三十三観音石像……………	七四	
三十三観音対照一覧……………	七六	
六 平笠口の石造文化財……………	八三	
概説……………	八三	
岩手山上坊神社講中の祈禱詞……………	八四	
平笠口の石造文化財一覧……………	八八	
七 零石口の石造文化財……………	九六	
概説……………	九六	
零石口の祈禱詞……………	九六	
零石口の石造文化財一覧……………	九八	
八 岩手県内の岩手山・岩鷲山信仰碑……………	一〇二	
概説……………	一〇二	
岩手県内の岩手山・岩鷲山信仰碑一覧表……………	一〇五	
参考・引用文献……………	一一二	

一、調査の概要

(一) 調査の目的

北東北第一の高山岩手山は古来岩いわ露ろ山さん大だい権けん現げんとして崇あがめられ、江戸時代以降は登拝者・登山者も増え、岩手山信仰の高まりを反映して石碑や石仏も多く建てられている。今回の調査は、①岩手山に所在する全石造文化財を悉皆調査し記録すること、②その特色を明らかにすること、③石造文化財と岩手山信仰との関りを明らかにすること、を目的に行われた。

(二) 調査地域

岩手山には東、北、南の三方に登山道があり、それぞれの登山口には岩手山神社がある。即ち、滝沢村柳沢（柳沢口）、西根町平笠（平笠口、上坊口）、栗石町長山（栗石口）の岩手山神社がそれで、藩政時代には新山堂と呼ばれ、山頂の奥宮に対する里宮であり、それより神域とされていた。今回の岩手山の石造文化財の調査地域はこの各岩手山神社の神域から登山道を経て岩手山頂までである。但し、柳沢口には、岩手山神社の手前ではあるがその神域とされた一王子と、鹿角街道からの入口である分れをも調査地域に加えた。

(三) 調査対象

調査地域内の全石造文化財を調査対象とした。即ち、
石碑（文字碑）……神仏信仰碑・記念碑・祈願碑などのほか、道

標（道分石）・道程石（合夕石）。
像容……ゴンゲンサマ・神仏像・石宝剣・狛犬など。
建造物……石祠・石燈籠・石鳥居及び扁額、手水鉢など。

(四) 調査日程及び調査員

- | | | | | |
|-------|---|--------|-----------|-------------|
| 第一回 | 昭和五十九年十月十日 | 平笠口 | 一合日／頂上薬師岳 | |
| 第二回 | 〃 | 十月十一日 | 〃 | 山頂お鉢、奥宮 |
| 第二回 | 〃 | 十月二十七日 | 〃 | 山頂お鉢、岩手山神社 |
| 調査員 | 大矢邦宜（岩手県立博物館主任学芸調査員） | | | |
| 調査補助員 | 渡辺義光（西根町史編さん係長） | | | |
| 第四回 | 昭和六十年十月十日 | 栗石口 | 一合日／不動平 | |
| 第五回 | 〃 | 十月十四日 | 〃 | 柳沢口 馬返し／不動平 |
| 第六回 | 〃 | 十一月五日 | 〃 | 栗石口 岩手山神社 |
| 第七回 | 〃 | 十二月六日 | 〃 | 柳沢口 岩手山神社 |
| 調査員 | 大矢邦宜 | | | |
| 調査補助員 | 沢村 勉（滝沢村教育委員会社会教育係長）
桐生正一・桜井万彦（滝沢村埋蔵文化財担当）
岩佐浩子 | | | |

(五) 調査のまとめ及び執筆

調査のまとめと本稿の執筆は大矢邦宜が担当し、県内各地の岩手山信仰の資料収集・整理については岩佐浩子の、また、岩手山信仰史の文献調査は白沢千賀子（岩手県立博物館解説員）の助力を得た。

二、岩手山と岩手山信仰

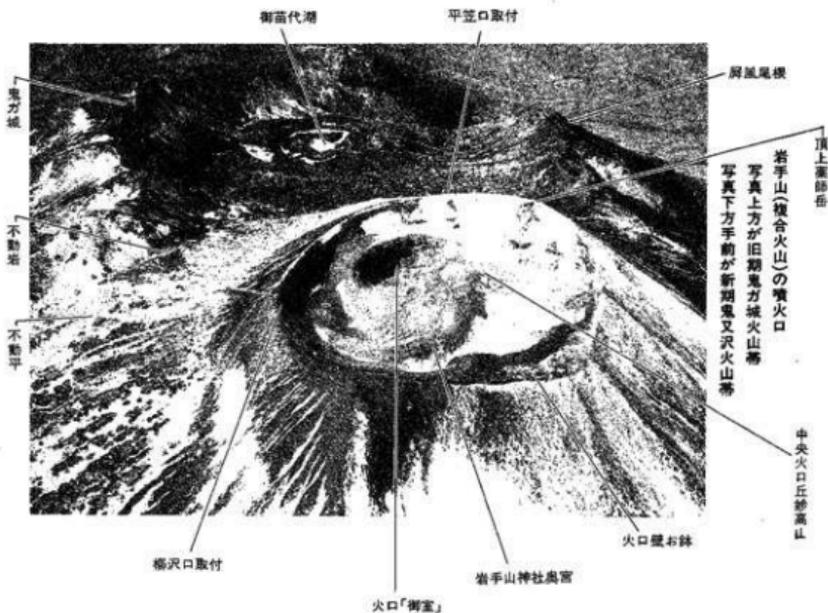
(一) 岩手山

北奥羽における最高峰岩手山は「奥の富士」とも呼ばれ、その美しく雄々しい山容を愛され、岩手の人の心を育んできた。奥羽山脈から大きく東に張出した標高二〇四一米のこの火山は真東の玉山村付近から大きくコニーデ型の均整のとれた姿をみせるが、東南の盛岡からは「南部の片富士」にみえ、南側の磐石町からは西側の尾根に続く長く低い山稜にみえ、富士型を美とする心は裏切られる。これは岩手山の複雑な成立ちに起因している。

「初めに西岩手の噴火があった。現在その火口巖が、北側の屏風尾根、南側の鬼が城尾根として残っている。そしてその中央の凹地は、東西三軒、南北二軒のほぼ楕円形の旧噴火口であって、そこに御釜、御苗代と呼ぶ二つの火口湖がある。その後、その東部が爆発して、現在の最高部を形作った。東の山麓から臨む秀麗な南部富士がそれである。その頂上の噴火口はお鉢と呼ばれ、その中に更に火口丘が盛りあげて二重式火山となっている。」深田久弥は名著「日本百名山」の中で、その過程を簡潔に、しかも、全ての要素を盛込んで解説している。

(二) 岩手山信仰

この複雑な山容が鬼が城の鬼の伝説を生み、坂上田村麻呂の悪鬼退治の伝説を生んだ。山村麻呂が陣をしいたところを巖鷲山田村明神として祀り、後、巖鷲権現として山頂に勧請したとも伝える。しかし、偉大な自然景観に畏敬の念を抱くのは日本人の素朴な宗教感情であり、岩手郡



にあつて秀技な山容を誇る岩手山が信仰されるのはごく自然のことであらう。この自然信仰に組織的な宗教が入り込むとき、権現号や神号が定められる。岩手山を岩鷲山・巖鷲山とするのは通音によるものであろうが、この呼称はそれほど古いものではなく、江戸時代以降のことと考えられている。

鎌倉時代初期に、源頼朝から岩手郡を与えられた工藤小次郎行光が、岩鷲山大宮司に任せられ、代々奉祀したという。岩鷲山の名称はともかくとして、岩手郡の領主ならばその第一の名山を祀るのは当然であらう。盛岡に居城を定めた南部氏もその守護として崇敬した。神体は岩手山自体で、岩鷲山大権現と号され、本地垂迹（日本の神の本来の姿（本地）は仏教の仏・菩薩であつて、それが仮の姿を取つてあられた（垂迹）もの）の考え方から、本地は阿弥陀如来・薬師如来・観音菩薩とされた。奥宮は山頂で、柳沢口・平笠口・平石口の各登山口には遙拝所として新山堂が建てられた。盛岡からの正参道である柳沢口は特に重視せられ、寛永三年には盛岡城下に新山堂が建てられ、まもなく創建された羽黒派修験系の大勝守が別当寺になった。平石では田村麻呂ゆかりの大宮（大宮神社、平石町西根）がご本社であると伝えられている。

平笠口（上坊）は大蔵院、平石口は円蔵院が別当であるが、柳沢口では厨川工藤家から祭祀権を引継いだ大勝寺と、一方井の出で信直以来の正統性を主張する自光坊 および工藤家三勇士の一人斎藤藤三郎の子孫と伝える藤木斎藤家がその祭祀権を争っていた。藤木斎藤家は京都の吉田神道入門、明暦四年には柳沢祐宣（柳沢新山社神主）として家老連判の証文を給されている。

岩手山が世間の耳目を驚かせたのは貞亨三年（一六八六）から始まる噴火活動である。この時の噴火は有史以来の大噴火で、山頂の火口（御室）から噴出したものであつた。空は暗黒になり、北上川は白濁し、盛

岡でも火山灰は激しく降り、一本木では一尺ほど積り、焼石は地屋敷まで飛んできたと記録されている。この一大事に当り、藩では早速京都吉田家へ奏上し、正一位権現の位を岩鷲山に贈つた。平石別当円蔵院の記録では、以前は巖鷲山田村明神と号していたが、このとき巖鷲山大権現と唱えるようになったという。

この噴火では山頂に自光坊が建立した阿弥陀・薬師・観音の石像も火口から噴出した砂石のために失われた。火山活動は元禄年間も続き、享保四年（一七一九）にはついに岩手山北東部中腹から熔岩を噴出し、「焼走り」をつくつた。享保十六年（一七三一）から翌年にかけても小活動があつたが、ようやくその後は鎮静化している。

岩手山に現存最古の石造物が奉納されたのは明和八年（一七七二）である。それまでの岩鷲山信仰を考えると案に相違してそれほど古いものではない。これはすべてが噴火のせいではないようである。この地方の石造文化財の造立は遅く、特に山岳信仰に関するものはこの頃から造立が始まる。（13頁参照）。これはこの頃から町人や農民に参詣の余裕ができ、建碑の風習が高まつたためであらう。

一八〇〇年代に入ると岩手山への参詣者が急増したらしく、文政二年（一八一九）には登山道に道標が建てられ、不動平に沼宮内狹持小屋が設置された。文政五年には平笠口には道標が建てられ、翌六年には平笠不動にも狹持小屋が新設されている。安政四年（一八五七）には盛岡の町人講中により山頂お鉢に三十三観音の石造が建てられた。この頃が岩鷲山信仰の最盛期で、参詣登山路の拝所も整い、参詣者の唱える祈禱詞が定まったのもこの頃であらう。

明治維新は地方の信仰も大きく改変させた。神仏分離政策により、岩鷲山大権現号は廃止させられ、新たに祭神を顕国魂大神（大國主命、大穴牟遲命）、宇遲之御魂命、倭建命の三神と定めて岩手山神社と改



第1圖 岩手山登山道地図

名、別当大勝寺全教は遺俗し神官となった。

(三) 岩手山年表

洪積世 旧期火山活動(西岩手火山、鬼ガ城火山)

(第四紀) 第一期 大地獄火山活動

二〇万年以前

第二期 鬼ガ城と屏風尾根が出来る(火口壁)

第二期 御苗代火山・御釜火山活動

新期火山活動(東岩手火山、鬼又沢火山)

約一万年前

第一期 西岩手火山大地獄カルデラ東斜面中腹部に火山活動(鬼又沢火山)、不動平の形成(カルデラ)

第二期 薬師火山活動、薬師岳・お鉢ができる(外輪山)

第三期 妙高山噴出、妙高山ができる(中央火口丘)

※なお、岩手山の火山区編年を研究している土井重夫氏(日本重化学工業・滝沢村在住)によれば、カルデラの形成に伴って大規模な山体崩壊を起したといわれる。西櫻町にみられる「流れ山」は山体崩壊による堆積物である(県立博物館大石雅之氏の指示による)。

八〇一(延暦二〇) 坂上田村麻呂、岩手山の悪鬼を退治すると伝える。

八〇七(大同二) 後、巖鷲山田村明神として祀り(大宮、田蔵坊伝)

更に巖鷲権現として山頂に勧請したという(自光坊伝)。

一一九〇(建久二) 岩手郡を領した工藤小次郎行光が、この頃岩鷲山

大宮司に任せられ、岩手山に参拝登山すと伝える。

一五四六(天文一五) 南部信直、岩手郡一方井に生れる。男子出生を岩

鷲山に祈願したという(自光坊伝)。

一六〇三(慶長八) 南部利直、滝石の岩鷲坊宜(田蔵院木村家)を公

認し、手作地を祈念料として寄進(木村家文書)

(「岩鷲山」の初見資料)。

一六一六(元和二) 頃、工藤如光、磐石村安楽坊(磐温泉湯守)を岩手

山に代参させる(厨川工藤氏系図)。

一六二六(寛永三) 利直、盛岡新山堂を建立と伝える(封内郷村志)。

一六三三(〃一〇) 重直の妾勝山、岩鷲山大勝寺を創建。住職羽黒派

山伏行海上人、安楽院二世を称し、岩鷲山権現社の

別当となる。

一六四四(〃二二) 領内旱天により大勝寺、自光坊とともに岩鷲山麓

柳沢に雨乞の法を行う。

一六四八(慶安元) 重直、柳沢新山堂を建立。

一六五六(明暦二) 重直病いにつき、岩鷲山に三十三騎代参を命ずる。

一六五八(〃四) 篠木斎藤家は柳沢坊宜(柳沢新山堂の神職)とし

て御堂掃除のため諸役を免除される。

一六八六(貞享三) 岩手山噴火、先年山頂に白光坊が建立した弥陀、

薬師、観音の石仏や三十六童子の岩も噴出した石砂

で不明となる。以降享保年間まで火山活動が続く。

京都吉田家より正一位権現上陸の宣言御幣出る。

参詣前の四足二足の禁、行屋籠り他の精進潔斎を

通達する。

一七一九(享保四) 岩手山中腹から熔岩噴出、「焼走り」をつくる。

一七三一(〃一六) 岩手山噴火。翌年まで活動続く。以降鎮まる。

一七七一(明和八) 現在最古の石造物・石宝剣(山頂・奥宮)

一七七九(安永八) 山頂奥宮の石祠が建てられる。

一七八九(天明九) 平笠不動の石祠が建てられる。

一八〇二(享和二) 不動平・御不動の不動明王石像が建てられる。

一八一九(文政二) 柳沢口改所(受取権現)に岩鷲山の碑が設置される。



岩手山頂の火口(御室)と火口丘(妙高山)

柳沢口登山道に道標一本が設置される(『内史略』に記録あり。但し、現物は確認できず)。

不動平に休息所の小屋が建てられる(『内史略』)
(沼宮内^{ニノミヤノ}拱待小屋がこれであろう。)

一八三二(文政五) 平笠口登山道に道標(道程石)を設置(現存)。

一八三三(〃六) 平笠不動に拱待小屋が建設される(石室剣路)。

一八三八(〃一一) 柳沢口一合目に石祠建立(笠詰権現)。

一八四七(弘化四) 柳沢口一王字に巖鷲山の碑が建てられる。

一八四九(嘉永二) 山頂清水権現に十一面観音石像が建てられる。

一八五六(安政三) 分レに巖鷲山の標柱(追分石)が建てられる。

一八五七(〃四) 八日丁を中心とする盛岡講中により、山頂お鉢から奥宮にかけて三十三観音石像が安置される。

一八六六(慶応二) 盛岡城下夕顔瀬橋中島に巖鷲山常夜燈を建立。

一八六九(明治二) 新政府の神仏分離政策により、別当大勝寺全教、

巖鷲山大権現を停め、三神を定めて岩手山神社と改めることを願出る。

一八七一(〃四) 岩手山神社、郷社となる。

一九〇六(〃三九) 花巻町中村巳吉、お鉢に三十三観音石像を建てる。

日露戦争以後、岩手山神社の復興気運高まる。

一九一六(大正五) 岩手山神社、県社に昇格する。

一九二七(昭和二) 分レに岩手山神社の石造大鳥居が建てられる。

一九二九(〃四) 山頂に岩手中学校により大石碑が建てられる。

一九三五(〃一〇) 岩手山測候所が建設される。翌年から観測。

一九七〇(〃四五) 岩手山で岩手国体の山岳競技が行われる。

三、岩手山の石造文化財

(一) 造立数・種類

総数 各登山口の岩手山神社から岩手山頂までにある石造文化財は総数二四九基にのぼっている。三十三体を祀る三十三観音や二基一対で奉納される石燈籠、狛犬など一組のものは一件として数えたと三三四件となる。

地点別造立数(第1表) 柳沢口(分レ、岩手山神社、不動平)は五九基、平笠口(上坊岩手山神社、平笠不動、お鉢手前)は四一基、磐石口(岩手山神社、不動平手前)は十七基、山頂(お鉢、頂上薬師岳、奥宮)は一三基である。即ち、分レからの柳沢口コースをたどって山頂まで登ると、その間に実に一九一基もの石碑や石仏その他の石造文化財が立ち並んでいることになる。但し、今回の磐石口の調査は不十分であり、更に増えると思われる。

山頂が最も多いが、これはお鉢に三十三観音像が二組(現存数六三休)、奥宮にゴングンサマが十五頭も祀られていることによる。柳沢口と平笠口の登山道には一合目、二合目などの道のりを刻んだ道程石が建てられていて基数が多くなっている。

種類別造立数(第2表) 形態別では石碑六八基、像客一二四基、建造物五七基で、石仏やゴングンサマなどの像客が最も多い。種類別でみると①三十三観音六三基(二組)、②石燈籠三三基、③道程石二九基、④ゴングンサマ二三頭、⑤石祠一六基、⑥石宝剣一二基、⑦狛犬一二頭などである。

(第1表) 地点別造立数

(母数は石燈籠二基一対で、三十三観音はセツト一、として計上したものである)

造立地点		造立数		主な石造文化財		造立基数 (件数)	
基数	件数	基数	件数			基数	件数
柳沢口							
分レ・王子	5	5	5	遺存石(庚申庚、寛政12、寛政石(田村大由神・文化4、道分石(薬師山、安政3)			
岩手山神社	11	7	5	狛犬(明治10)、石立明(明治10)			
馬返し	5	5	5	石燈籠(明治45、大正15)			
登山道	27	11	11	ゴングンサマ(観音奉立、昭和3)			
御不動	11	8	8	岩手山神社(昭和45)			
お鉢	83	17	11	奥の宮十一(文政2)、石祠(文政11)			
頂上	8	6	6	磐石山(文政5)、石燈籠(文政5)			
奥宮	41	36	17	三十三観音(明治15、明治18、明治19、明治20、明治21、明治22、明治23、明治24、明治25、明治26、明治27、明治28、明治29、明治30、明治31、明治32、明治33)			
山頂							
磐石口	17	11	11	薬師如来像(昭和7)			
登山道	16	8	8	石燈籠(天保9、安政2、慶応1、慶応2)			
平笠不動	8	7	7	道程石(文政5、9基)			
平笠口							
岩手山神社	17	11	11	石燈籠(天保9、安政2、慶応1、慶応2)			
登山道	16	8	8	道程石(文政5、9基)			
磐石口							
登山道	3	3	3	石立明(明治10)			
岩手山神社	14	10	10	石立明(明治10)			
登山道	3	3	3	石立明(明治10)			
合計		249基				249基	



お鉢に立ちならぶ三十三観音石像



山頂奥宮の石造物群

(第二表) 種類別・地点別造立数(基数)

計	建造物				像容										石碑		形態				
	石 障	手 鉢	厨 額	石 鳥 居	石 燈 籠	石 祠	狛 犬	石 宝 剣	地 藏	大 黒 天	八 幡 神	衆 師 如 來	不 動 明 王	観 音	三 十三 観 音 の 観 音	ゴ ン ゲ ン サ マ	造 程 石	石 碑 ・ 石 柱	形 種	地 点	
5				1													3	1	分レ...	王子	
11	1				4		4	1										1		岩手山神社	
5																1		4		馬返し	
27								3									3	18	1	2	登山道
11					4			2						3			1		1		御不動
59	(1)			(1)	(8)	(3)	(4)	(3)						(3)		(4)	(19)	(4)	(9)		(計)
83						4						1	1	2	63	2	1	1	8		お鉢山
8		1				1	2	1				2							1		頂上
41			1	1	6	2	2	6			1						15		7		奥宮
132	(1)	(1)	(1)	(6)	(7)	(4)	(7)				(1)	(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(計)
17					11		2		1					1					2		岩手山神社
16					1	5			1								9				登山道
8						1		2					1			1			3		平等不動
41					(1)	(6)	(2)	(2)	(1)	(1)			(1)	(1)		(1)	(9)		(5)		(計)
14		1		1	7		2												3		岩手山神社
3					1												1		1		登山道
17		(1)		(2)	(7)		(2)									(1)			(4)		(計)
249	1	2	1	4	33	16	12	12	1	1	1	3	5	3	63	23	29	5	34		合
	57				124										68		計				

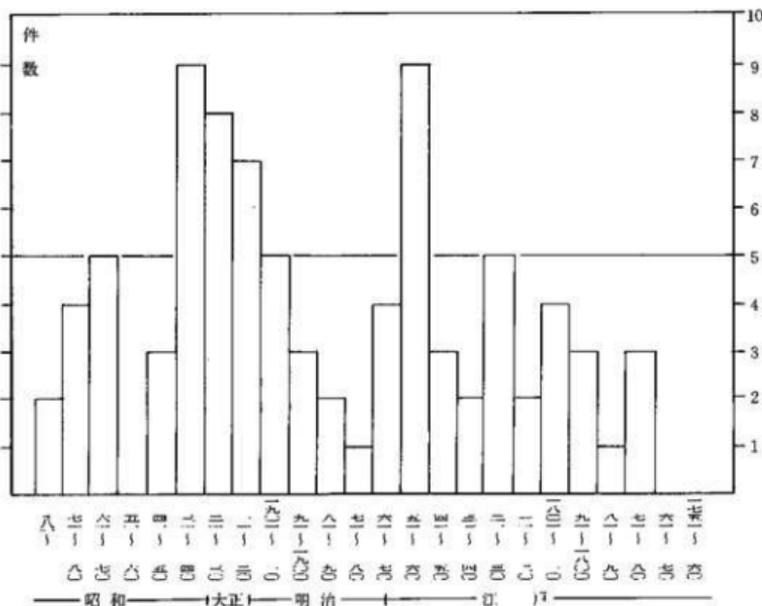
(I) 造立年代

最古の石造文化財(第三表) 最古のものは①山頂奥宮の明和八年(一七七二)石室剣で、②安永八年(一七七九)石祠(山頂奥宮)、③安永年間(一七八六)石祠(お鉢・平笠口取付)、④天明六年(一七八六)石室剣(山頂奥宮)、⑤天明九年(一七八九)石祠と続き、山頂奥宮に古いものが多い。記録の上での初見は貞享の頃である。『巖手山記』所載文書の貞享三年(一六八六)岩手山大噴火の記録に、先年白光坊が建立した「弥陀薬師観音石佛」も押し上げられた石砂のために見えなくなってしまうたとある。この噴火はその後も断続的に続き享保四年(一七一九)には「焼走り」を噴出し、享保十七年(一七三二)頃までほぼ半世紀に亘って続いている。したがって現存最古の石造物は噴火活動がおさまってから約四〇年後の造立となる。

岩手山に江戸後期以降の石造物しかみられないのは何故であろうか。噴火により古い石造物が失われ、その後活動がおさまるまで造立できなかったためであろうか。

岩手県全体の石造文化財の造立状況を見ると元禄頃(一六八八)〜一七〇四)から各地で建てられ始め、享保(一七一六)〜一七三六)以降は次第に増えてくる。岩手山の石造文化財は県内においては決して古い方ではない。但し、出羽三山碑などの山岳信仰碑だけであると造立ははや遅れ一七五〇年前後からとなる。岩手郡内で古い山岳信仰碑をみると、西根町は明和六年(一七六九)湯殿山大権現塔、磐石町は明和九年(一七七二)湯殿山碑、玉山村は若干早く元文五年(一七四〇)出羽三山塔、但し次は安永八年(一七七九)湯殿山碑、岩手町は天明七年(一七八七)出羽三山碑、滝沢村では岩手山にあるものを除いた山岳信仰碑では篠木

(第二図) 一〇年単位造立件数分布





山頂奥宮（背後は妙高山）

の文政七年（一八二四）、田村神社・岩鷲山碑、盛岡市内の最古の巖鷲山碑は文化十二年（一八一五）である。こうしてみると岩手山の石造文化財が江戸後期以降のものばかりであることは決して不思議ではなく、噴火のせいばかりでもなく、むしろ、この地方の石造文化財の造立状況によるものであることがわかる。

造立年代分布 第二図で十年単位の造立件数分布をみると世情を反映して変動がみられる。一七七〇年代から造立され始め、一八二〇年代に若干多く、江戸末期の一八五〇年代に最も多く造立されるが、明治維新後は急減し、その後ようやく一九〇〇年代に入って回復、一九四〇年代まで大正・昭和前期は最盛期となる。敗戦とともに全く造立をみなくなり、一九六〇年代に至り造立されるようになっていく。

これを第三表の造立年代順一覧とともに考察するといくつか興味深いことが知られ、次の六期に区分できる。

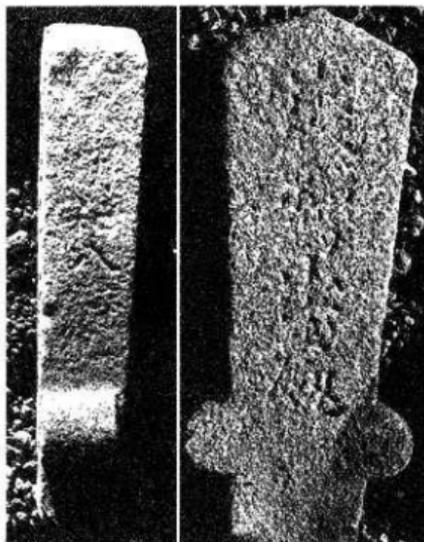
第一期 奥宮・御不動の整備期（明和と享和年間）

一七七一年の最古の造立から一八〇二年までは、一王子の庚申供養遺標を除くと、全て山頂か山頂直下の不動平にあり、その内容は石祠、ゴングンサマ、石宝剣、石仏である。このことはこの時期に奥宮を中心として石造物が奉納され整備されたことを示している。山頂には本来お宮が無く、「直に山を神体と崇め奉り候」（内蔵坊記録・天保十年）、「巖鷲山記」所載）とあるが、江戸後期になると石碑造立が流行し、山頂にも石造物が奉納され、そのことが拜所を明確にし、石造物奉納を増幅させていったものであろう。

第二期 参詣道拜所の整備期（文政・天保年間）

この時期は麓から山頂までの参詣道全般に石造物が建てられた時期である。先ず文政二年には登山道入口の関門である改所に「奥の富士」の

岩手山最古の石造物「巖鷲山宝剣」(明和八年)



清水権現の十一面観音立像(嘉永二年)

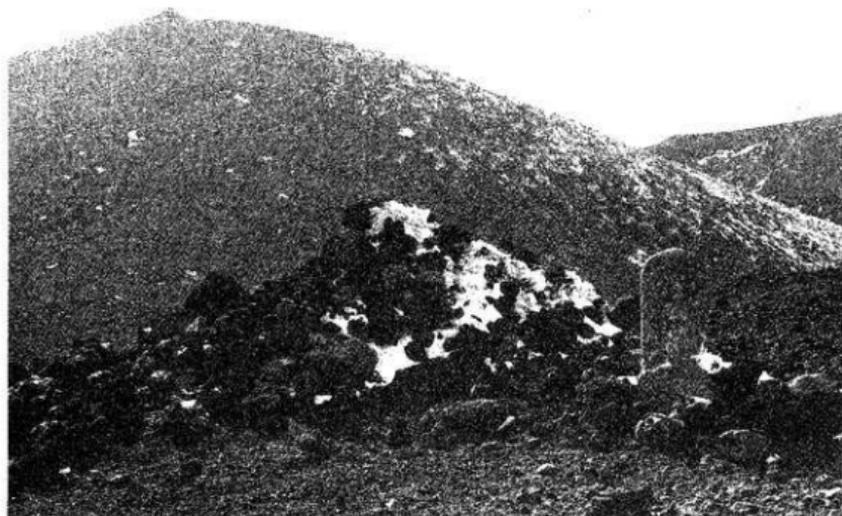


碑が建てられた。「内史略」文政二年の項に「巖鷲山へ参詣道しるべの碑を麓より頂上迄十本建。信仰の町人共寄附也。即ち一合目より一升目迄也。頂上の一升目は火慈寺八世恵親和尚寄附也。」とあって一合目、二合目を示す道程石が設置されたことがわかる。柳沢口登山道に現存する道程石には年号がないが江戸期のものである。次いで文政五年には平笠口に道程石が設けられ、これは九基現存している。また、翌六年には平笠不動に摂待小屋が設けられたことが石宝剣の銘によって知られる。「内史略」の前掲箇所が続いて「この時、山上に参詣の者休息所共建。是又諸人の寄附也」とあり、柳沢口の不動平にも文政二年頃に小屋が建てられたことがわかる。沼宮内摂待小屋がこれであろう。文政十一年には一合目笠話(笠注連)権現の石祠が建てられ、天保年間に入ると平笠口・平笠口の新山宮(現岩手山神社)に初めて石燈籠が建てられている。現存はしませんが柳沢新山宮にもこの頃には石造物が奉納されていたことであろう。

第三期 巖鷲山信仰の高揚期(弘化〜慶応年間)

幕末のこの時期は神仏習合の巖鷲山信仰が最も高揚した時期である。お鉢の清水権現や七合目鉢立権現、八合目摂待権現にも石祠や石仏が置かれ、分レには巖鷲山の入口を示す立派な迫分石が建てられた。この時期を象徴するものは盛岡購中による三十三観音石像の造立(安政四年)であろう。この時の賑いは「内史略」に記されているが、同時に「麓より御殿(山頂御室)迄の間、参詣の道しるべ」も建てたとあり、この時も道程石が設置されている。

この時期は前期を受けて拝所の整備が一段と進み、参詣者が各拝所で唱える祈禱詞もこの頃に現行の形に整えられたものであろう。



中央火口丘妙高山 右手前は三十三観音石像

第四期 明治維新による低迷期（明治前期・明治二〇年頃まで）

この時期の造立はわずかに柳沢岩手山神社の明治十年狛犬一件のみである。これは維新政府の神仏分離政策により、巖鷲山大権現号が廃され、修験が廃止となり宗教活動が著しく阻害され、一般人の岩手山への信仰心も冷え切ってしまったためである。

第五期 神社神道の高揚期（明治後期～昭和前期）

再び石造物が増えるのは日清戦争以後である。日露戦争の後は急速に岩手山神社の復興気運が高まり、柳沢岩手山神社は明治四十一年に社殿を修築、四十三年に岩手山一萬講社を結成、大正四年には北白川宮の登拝をみて一層盛上り、翌五年には県社に昇格した。このような情勢を反映して、各岩手山神社や奥宮には石燈籠や石鳥居が多く建てられている。また、武運長久祈願や紀元二千六百年奉祝関連の建碑も多い。

第六期 終戦による断絶と新生期（昭和二〇年以降）

終戦後初の建碑は昭和三十九年であり、実に二〇年の空白があった。これは戦前の岩手山神社信仰が国家神道と不可分の関係にあり、敗戦によってその拠りどころを失ったためである。その後登山関係の造立が増え、岩手山登山は信仰とは関係の無いスポーツとして発展してきた状況を反映している。

岩手山神社も再び地元の人々によって石造物が奉納され、再興されつつある。但し、雫石口岩手山神社の岩鷲山新山宮由来碑（昭和五十六年）にみられるように、戦前の国家神道への単なる回帰ではなく、江戸後期の素朴な巖鷲山信仰の要素がうかがわれている。

造立年代順一覽(紀年銘のあるもののみ)

順位	石碑No.	西暦	紀年	主	銘(種)	地区	地点
1	181	一七七一	明和8・5・吉	(石宝剣) 巖鷺山宝鏡		山頂	奥宮
2	166	一七七九	安永8・5・27	(石祠) 正一位岩鷺山大権現		"	"
3	116	一七八二	" 5・5・□	(石祠) 瀧園 (ゴングンサマあり)		"	お鉢
4	180	一七八六	天明6・5・28	(石宝剣) 正一位巖鷺山		"	奥宮
5	227	一七八九	" 9・5・吉	(石祠) 拳奇通		平谷口	平等不動
6	179	一七九七	寛政9・5・四	(石宝剣) 奉納銀石		山頂	奥宮
7	160	一八〇〇	" 12・5・27	(ゴングンサマ) 奉納		"	"
8	5	"	" 12・10	(道標) 庚申供養 右ハ四ノ前 左ハ御山道		柳沢口	一王子
9	112	一八〇一	享和1・5・吉	(浮彫薬師如来坐像)		山頂	お鉢
10	50	一八〇二	" 2・5・吉	(浮彫不動明王立像)		柳沢口	御不動
11	55	"	" 2・5・吉	(浮彫不動明王立像)		"	"
12	22	一八一九	文政2・5・	奥の嶺上		"	改所・受取権現
13	113	一八二〇	3・5・吉	(標柱) 岩鷺山		山頂	お鉢
14	209・232	一八二二	5・5・吉	(道標石) 二合目ハ八合五夕目9基		平谷口	登山道
15	51・52	"	5・5・27	(石燈籠) 巖鷺山		柳沢口	御不動
16	25	一八二三	6・5・21	(石宝剣) 正一位巖鷺山大権現 奉新此度拵得小屋建立		平谷口	平等不動
17	172	一八二七	" 10・5・	(石宝剣) 奉納		山頂	奥宮
18	24	一八二八	" 11・5・吉	(石祠) 大権現(ゴングンサマあり)		柳沢口	一合目・笠結権現
19	31	一八三三	天保4・5・吉	(石燈籠) 岩鷺山		平谷口	岩手山神社
20	204・205	一八三八	" 9・7・10	(石燈籠) 岩鷺山		平谷口	岩手山神社
21	4	一八四七	弘化4・5・吉	巖鷺山		柳沢口	一王子

順位	石牌No.	西曆	紀念	主	銘(種)	地区	地点
42	173・174	16	1899	32・旧5・吉	(狛犬)奉納	山頂	奥宮
41	183・184	1896	29・旧5・吉	(石燈籠) 御神燈	柳沢口	岩手山神社	
40	245・246	1890	23	(石燈籠)	山頂	奥宮	
39	7・8	1877	明治10・5・吉	(狛犬)	雲石口	岩手山神社	
38	214	"	2・6・17	(石燈籠)	柳沢口	岩手山神社	
37	167	"	2・5・吉	(石祠)	平笠口	駒形権現	
36	194・195	1866	2・5・25	(石燈籠)	山頂	奥宮	
35	188・199	1865	慶応1・5・27	(石燈籠) 岩鷲山	"	岩手山神社	
34	243・244	1859	6	(狛犬) 奉納	平笠口	岩手山神社	
33	185・186	"	5・5・吉	(石燈籠) 奉納	雲石口	岩手山神社	
32	53・54	1858	5・5・吉	(石燈籠) 奉納	山頂	奥宮	
31	149	"	4・5・吉	(石燈籠) 奉納	柳沢口	御不動	
30	63・148	1857	4・5・吉	三十三番觀世音 八丁石工	"	奥宮手前	
29	40	"	3・5・吉	(石祠) 奉納	山頂	お鉢・奥宮手前	
28	2	1856	3・3・吉	(道標) 巖鷲山 右鹿角道、左柳沢道	"	七合目・鉢立権現	
27	192・193	1855	2・5・27	(石燈籠) 岩鷲山大権現	柳沢口	分レ	
26	237	1854	7・5・27	(手水鉢) 奉寄進	平笠口	岩手山神社	
25	47	1851	4・5・吉	(石祠)	雲石口	岩手山神社	
24	56	1850	3・5・吉	(浮彫不動明王坐像)	"	八合目・拵持権現	
23	143	1849	2・5・吉	(浮彫十一面觀音立像)	柳沢口	御不動	
22					山頂	お鉢・清水権現	

順位	石碑No.	西暦	紀年	主	銘(種)	類	地区	地点
63	120	一九三二	" 7.7.3	(石祠) 南無薬師如来(薬師坐像あり)			山頂	頂上・薬師岳
62	18	一九三〇	" 5.8.8	(石祠) 八幡神社			柳沢口	馬返し
61	61	"	" 4.9	(石祠) 八幡神社			"	お鉢
60	188	"	" 4.9.5	(標柱) 奈納縣社岩手山神社奥宮			"	奥宮
59	60	一九二九	" 4.8	(道標) 向正面下ル奥宮参道 左御鉢廻り道			山頂	お鉢
58	3	一九二七	昭和2.5.20	(石鳥居)			"	分レ
57	9・10	一九二六	" 15.7.吉	(石燈籠) 奉納			柳沢口	岩手山神社
56	215	"	" 12.7.	(石祠) 駒形			"	駒形権現
55	225	一九二三	" 12.5.27	(石宝剣) 奉納大聖不動明王			平笠口	平笠不動
54	47	一九二〇	" 9.7.3	(石燈籠) 奉納			柳沢口	八合目・抵待権現
53	176・177	一九一九	" 8.5.23	(石燈籠) 奉納			山頂	奥宮
52	11	一九一八	" 7.7.	(石階)			"	岩手山神社
51	6	"	" 5.7.4	(標柱) 巖手山神社			柳沢口	岩手山神社
50	189	一九一六	大正5.5.27	奉納 岩手山神社			山頂	奥宮
49	14・15	"	" 45.7	(石燈籠)			柳沢口	岩手山神社
48	65・66	一九一二	" 45.5	(石柱) 奉納			"	お鉢
47	182	一九一〇	" 43.5.27	(石鳥居)			"	奥宮
46	61	一九〇九	" 42.7.25	(石柱) 登山会記念			"	お鉢
45	62・147	一九〇六 一九一五	" 39.4 大正4	(三十三観音像) (花巻町中村巳吉奉納) 32体			山頂	お鉢・奥宮
44	234	一九〇五	" 38.田5.	(石鳥居) 日露戦役記念			磐石口	岩手山神社
43	181	一九〇一	明治34.田5.27	(石鳥居) 日露戦役記念			山頂	奥宮

順位	石 碑 No.	西 暦	紀 年	名 稱	銘 (種 類)	地 区	地 点
85	233	一九八三	〃 58・7・吉	(標柱) 岩手山神社		〃	岩手山神社
84	242	一九八一	〃 56・11・8	鎮守奉獻 岩登山新山宮由來		磐石口	岩手山神社
83	20	一九七九	〃 54・11・吉	山紫水明風俗淳朴之所 滝沢村山岳会創立十五周年記念碑		柳沢口	馬返し
82	220	一九七七	〃 52・7	(石刻)		平等口	三十六童子
81	19	一九七五	〃 50・8	第10回村民登山大会記念		柳沢口	馬返し
80	206	一九七一	〃 46・5・吉	(聖觀音立像) 岩手山新山神社		平等口	上坊岩手山神社
79	21	(〃)	(字45)	誠実・明朗・躍進 岩手国体記念		柳沢口	馬返し
78	208	一九七〇	〃 45・10	巖手山神社植林記念碑		〃	上坊岩手山神社
77	15・196	〃	〃 45・旧5・27	(石燈籠) 巖手山神社		〃	上坊岩手山神社
76	207	一九六七	〃 42・旧5・27	岩手山神社		平笠口	上坊岩手山神社
75	17	一九六四	〃 39・12	岩手山登山道路改良記念		柳沢口	馬返し
74	71	一九四三	〃 18・9・17	(浮彫不動明王立像)		〃	馬返し
73	150	〃	〃 15	天壤無窮		山頂	奥宮
72	247	〃	〃 15	武運長久祈願		磐石口	登山道
71	190	〃	〃 15・9	北白川宮成久王殿下御登拝記念碑		山頂	奥宮
70	235	一九四〇	〃 15・旧5・27	大正天皇御即位記念神林碑		磐石口	岩手山神社
69	200・201	〃	〃 14・10	(狛犬) 奉納		平等口	上坊岩手山神社
68	191	一九三九	〃 14・旧5・27	皇軍將兵武運長久祈願		〃	奥宮
67	170	一九三七	〃 12・9・25	(石宝剣) 奉納岩手山		〃	奥宮
66	175	一九三六	〃 11・旧6・16	(扁額) 巖手山		山頂	奥宮
65	239・240	〃	〃 9・旧5・27	(石燈籠) 奉納		〃	岩手山神社
64	237・238	一九三四	昭和9・旧5・27	(石燈籠) 奉納		磐石口	岩手山神社

(四表) 地点別・遺立年代別遺立件数

計	茅石口		平笠口		山頂			柳沢口				地点		紀年銘				
	御	岩手山神社 登山道	御	岩手山神社 登山道	御	奥宮	頂上	お鉢	御	登山道	馬返し	岩手山神社	分レ一王子		年代	時代		
														1751~	60	江	紀年銘のあるもの・年代が特定できるもの	
														61~	70			
3					(3)	2	1							71~	80			
1					(1)	1								81~	90			
3					(2)	2		(1)				1		91~	1800			
4					(1)		1	(3)	2			1		1801~	10			
2					(1)		1	(1)	1					11~	20			
5			(2)	1	1	(1)	1	(2)	1	1				21~	30			
2	(1)	1	(1)		1									31~	40			
3					(1)		1	(2)	1			1		41~	50			
9	(2)	2	(1)		1	(2)	1	1	(4)	1	2	1		51~	60			
4			(3)		1	2	(1)	1						61~	70			
1								(1)				1		71~	80			
2	(1)	1	(1)	1										81~	90			
3					(2)	2		(1)				1		91~	1900			
5	(1)	1			(4)	2	2							1901~	10			
7					(3)	2	1	(4)	1	3				11~	20			
8			(2)	1	1	(3)	1	2	(3)	1	1	1		21~	30			
9	(2)	1	1	(1)		1	(6)	4	1	1				31~	40			
3	(2)	2			(1)		1							41~	50			
	(2)													51~	60			
5			(3)		3			(2)		2				61~	70			
4			(2)	1	1			(2)		2				71~	80			
2	(2)	2												81~				
7			(2)	1	1	(3)	2	1	(2)	1	1			江戸期(推定)		な 記 い 年 も 銘 の の		
8			(1)		1	(4)	1	2	1	(3)	2	1		明治以降()				
34	(2)	2	(7)	3	4	14	3	3	(5)	2	3	1		不 明				
134	13	3	10	26	7	8	11	69	36	6	17	26	8	11	5	7	5	計

四、柳沢口の石造文化財

概説

範圍 分レから柳沢岩手山神社・馬返し・登山道を経て山頂直下の不動平・御不動までを「柳沢口」とした。

造立数 柳沢口の石造文化財の造立数は三六件、五九基である。地点別では登山道が十一件、二七基で最も多い。これは拝所が所々に設けられていることと道程石が建てられていることによる。

分レ 鹿角街道からの分岐点であり、国道四号線と東北本線の開通後は岩手山登山道の入口となった。岩手山神社の大きな石鳥居（No 3、昭和2）の下に田村大明神碑（No 1、文政4）と巖鷲山碑（No 2、安政3）

があり、共に追分石を兼ね、岩手山の入口を示している。巖鷲山大権現はもと坂上田村麻呂伝説により田村大明神とも号されていた。

一王子（一王子権現） ここから神域とされ、かつては社堂がありここで折符詞を唱えてから新山堂へ向った。現在は巖鷲山碑（No 4、弘安4）と庚申塔兼追分石（No 5、寛政12）がある。

岩手山神社（新山堂、新山権現） 里宮である。ここで山役銭（戦前は十銭）を徴取していた。岩手山正参道の里宮として早くから整備されたところであるが、現存する石造物は明治以降のものしかない。江戸期にも造立されたはずであるが、維新後の神仏分離と神社としての整備等のために整理されたものであろう。

馬返し（馬止め） 裾野から急坂な山道にかかるところで、現在も車道の終点で、実質的な登山口となっているが、ここには拝所はない。全て

昭和の造立で、岩手国体記念（No 21、昭和45）や第10回村民登山大会記念（No 19、昭和50）など登山関係の碑が多い。

改所（受取所・受取権現） 馬止めから登山道は谷へ下る。その急坂を「解體坂」といい、鎖場があった。ここで草鞋をはき替へ、名を唱え身心の汚れを捨てたという。まもなく改所の小屋があり不浄の者を改め、水銭（戦前は五銭）を徴取していた。大正の初頃までこの山番はチョンマゲ姿であったという。ここには拝所があり折符詞に受取権現とある

が、現存する石造物は「奥の富士」碑（No 22、文政2）一基のみである。角柱の立派な碑で側面に俳句と漢詩が刻まれている。ここから急坂になり、「受取坂」といい鎖場があった。解體坂、受取坂とも昭和十年の岩手山測候所建設にあたり道がつけ替えられた。「巖手山記」に、受取坂を登り切った所に一合目の標石（道程石）があり、頂上を二升目として五寸

目毎に標石が建てられているが、これは旧藩時代に盛岡殿町藤島長兵衛が独力で建設したもの、という伝えを載せているが、その一合目の道程石とはNo 22「奥の富士」（殿丁高屋長兵衛とある）碑のことであろうか。

一合目（笠詰権現・笠注連権現） 左下に深い谷を見下してその縁を通る「桶の縁」を過ぎると一合目に着く。笠詰権現の石祠（No 24、文政11）があり、中にゴンゲンサマ（No 25）を祀っている。一合目を示す道程石は新しいものである。

二合目 二合五夕目 拝所ではなく、道程石のみが建てられている。柳沢口の道程石には新しいものと江戸期のものがある。No 28・30は江戸期のもので「紺屋丁市兵衛」など複数の奉納者名が刻まれている。「改所」

の項で紹介した「巖手山記」の伝える「殿町藤島長兵衛」独力建設による道程石ではない。二合五夕目にNo 30とともにあるNo 29は下部が失われている

で決定できないが、あるいはこれが藤島長兵衛の造立したものであ

ろうか。他の箇所では四合目No 33、八合目44、九合五目No 72には奉納者の刻名がなく、その可能性のあるものである。

三合目（御立場権現・小立場権現） 祈禱詞にある拝所であるが、新しい道程石しか確認できなかった。

四合目 拝所はなく道程石三基のみであるが、No 32は奉納者名入りの江戸期のもので、No 33は下部が欠けているが江戸期とみられるもの、No 34は新しいものである。

五合目 ここも拝所はなく道程石三基のみであるが、うち一基は「五夕」以下しかない。

六合目（御蔵権現） 「御蔵石」という巨岩があり、拝所になっているが、これも江戸期の道程石No 39と新しいものNo 38しか確認できなかった。

七合目（鉢立権現） 長い急勾配の登山路がやや平坦になるところで頂上も見え安堵する地点である。ここは拝所で安政三年の石祠があり、石工八日丁長太の名がみえる。長太は翌四年に盛岡講中奉納の三十三観音像No 63―No 68を刻んだ石工である。ほかに道程石二基がある。

八合目（沼宮内権現） 八合目小屋の前に新しい道程石No 43があり、そこから三〇mほど先に、江戸期の八合目道程石No 44がある。ここがかつての沼宮内接待所跡である。前述の通り（15頁）「内史略」文政二年（一八一九）の項に「此時山上に参詣の者休息所共建。是又諸人の寄附也」と小屋の建設の事が見え、さらに割註で「参詣時刻後る者 或は暁の御来迎を拜せんとする者 多く此休息所に一宿の為也と云」とその目的を記している。沼宮内の講中により運営されたので沼宮内接待と称したという。ここに「用地八丁四方 沼宮内接待所」と刻む碑（No 45）がある。八丁四方とは方八丁（一辺約八七〇mの正方形）のことで律令時代の官衙（役所）区割りと同じである。

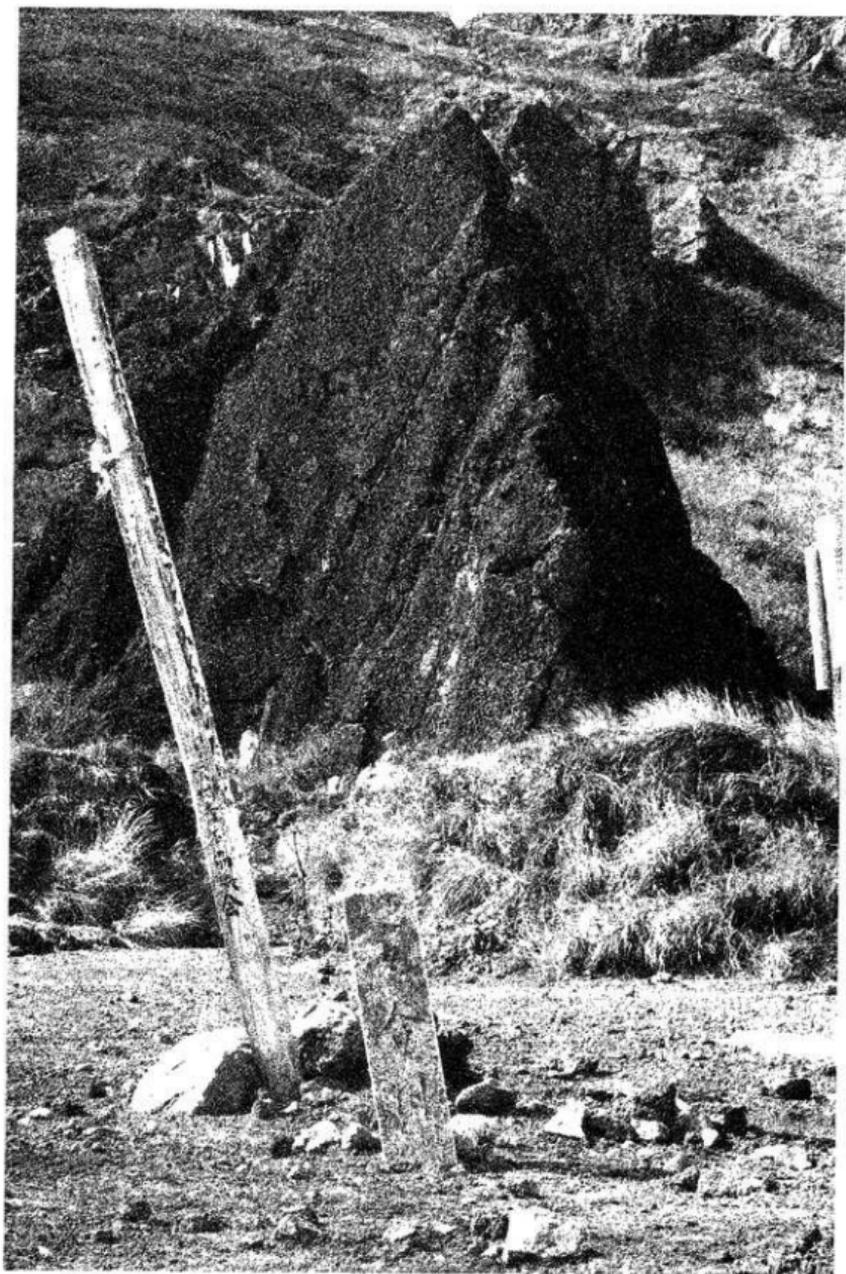
また、これも拝所沼宮内権現で、石祠（嘉永4、No 46）とゴンゲンサマ（大正9、No 47）がある。接待所の建設が文政二年であれば拝所としての沼宮内権現の成立はその後であろうから、現行の祈禱詞の成立も江戸後末期であろう。

No 44八合目道程石には奉納者名がない。「巖手山記」の伝える穀町藤島長兵衛独力建設によるものであろうか。あるいは「内史略」に伝える接待小屋建設と同じ文政二年か、または、盛岡講中三十三観音奉納と同じ安政四年の遺立であろうか。

八合五目 八合目小屋から九合目御不動までは殆んど平坦で不動平と呼ばれている。途中に仙北御山講中建立の道程石がある。

九合目（御不動権現） 山頂を右手に見上げながらハイマツの茂る不動平を進むと旧外輪山である鬼ヶ城が始まるあたりに屹立する尖頭の大岩があり、これを不動石と呼び御不動権現として拝んでいる。ここには浮彫の不動明王三体があり、No 50享和二年、No 55同年、No 56嘉永三年と古いものが多く、岩手山の拝所の中で御不動は奥宮とともに早くから成立したことを示している。石燈籠二組も文政（五年か）と安政五年の建立である。戦前は岩根神社とも称していた。すぐ近くに不動小屋があり、南からの磐石口登山道はここで合流する。

御不動のすぐ前に九合目の道程石があり、ここから急勾配の直登路となり約三〇分登山頂お鉢（火口壁）に取付く。



不動岩「御不動」、直下に不動明王石像・石燈籠がある。手前は「九合目」道標石

柳沢登山口の祈祷詞（『巖手山記』による）

祈禱詞には登山道の拝所順が示されているので参考のため掲げる。

一ノ王子権現（一王子）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ一ノ王子権現一時礼拝

新山権現（新山堂・岩手山神社）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ新山権現一時礼拝

受取権現（改所・受取所）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ受取権現一時礼拝

笠詰権現（笠注連権現・一合目）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ笠詰権現一時礼拝

小立場権現（御立場権現・三合目）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ小立場権現一時礼拝

御蔵権現（六合目）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ御蔵権現一時礼拝

鉾立権現（七合目）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ鉾立権現一時礼拝

沼宮内権現（八合目）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ沼宮内権現一時礼拝

御不動権現（九合目）

南無大悲ノ不動明王ノ夜叉下り妙見王子御注連ニ八大金剛童子ノ一時礼拝

虚空藏権現（お鉢・柳沢口取付か）

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ虚空藏権現一時礼拝

月山権現（お鉢）

南無ツギ山月山鳥海羽黒ハ三所ノ権現御注連ニ八大金剛童子ノ一時

八幡菩薩（お鉢）

新山権現大権現ヤワタ八幡大菩薩ノ一時礼拝

熊野権現（お鉢・平笠口取付）

南無熊野ハ日本第一大領権現ケンシヤコウボウヤシャニヤ三所ノ権現

オシメニハ八大金剛童子ノ一時礼拝

薬師如来（頂上薬師岳）

南無東方淨瑠璃世界医王天上日月光光十二大願十二神所薬師瑠璃光

如来七千夜叉医方願力ホウボウカ罪消カイシキソヨウノ一時礼拝

清水観音（お鉢から内部・御殿へ下りる所、岩がある）

南無婦命頂礼南無大悲ノ清水観音ノ一時礼拝

妙光ヶ岳（お鉢内部の中央火口丘）

南無精進精物精大権現菩薩ノ一時礼拝

御本社（奥宮）

南無岩手山大権現シメノゴウ御峯ハ三十六童子御宮本社ハ三社ノ権現

田村明神ノギノ王子一時ニ御本尊ワラハバキ一時礼拝

御釜権現

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ御釜権現一時礼拝

七瀬権現

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ七瀬権現一時礼拝

松山権現

南無婦命頂礼懺悔々々六根罪消南無大悲ノ松山地蔵ノ一時礼拝

御来迎権

南無空ニハ梵天帝ノ歌日流日月八流雷王子天皇雷日天月天一

時礼拝

第五表 柳沢口の石造文化財一覽

柳沢口										石 No.	地 点	石 碑 No.	銘 文 ・ (種 類)	年 代	高 寸	巾 法	奥行 cm	備 考	
16	14・15	12・13	11	9・10	7・8	6	5	4	3										2
新山権現										1	文化四年 奉納正一位田村大明神 卯五月吉日 左おん山道	1807	83	52					
〔石燈籠〕										2	五穀成就 (人名) 安政三丙辰 (人名) 三月吉祥日	1856	179	44	35.5				
〔石鳥居〕										3	〔額〕 奉納 納岩手山神社 中村巳吉	1926							
〔標柱〕										1	弘化四丁末歳 五月吉祥日 柳澤村中	1847	112	68	28			二十三夜塔(明治18)あり。	
〔狛犬〕										2	寛政十二庚申 十月庚申 右八返前	1800						一王子商店前分岐 若干移動。	
〔石階〕										1	大正五年七月四日 岩手山神社	1916	153	29	27.5			頭取兼手町ほか 高橋徳次郎ほか。	
〔石燈籠〕										2・3	〔台座〕 明治十丁丑歳 五月吉日	1877	高39	台高68					
〔狛犬〕										4・5	奉納 大正十五年七月吉辰 五月吉日	1926	216						
〔石燈籠〕										6	大正七年七月 (人名あり)	1918							
〔狛犬〕										7・8	〔台座〕 岩手縣二戸郡一戸町本町八九番地 (古座標書)	不明	像高55						
〔石燈籠〕										9・10	〔台座〕 奉納 明治四十五年七月 五月吉日	1912	238						
〔石宗刻〕										11	奉納 明治二十九年 五月吉日	1896	53.5	15					



3



2



1



5



4



9

10

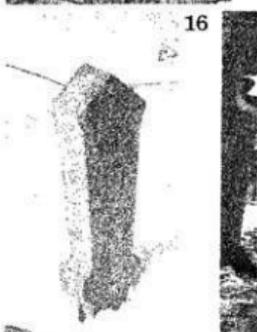


7

8



6



16



14

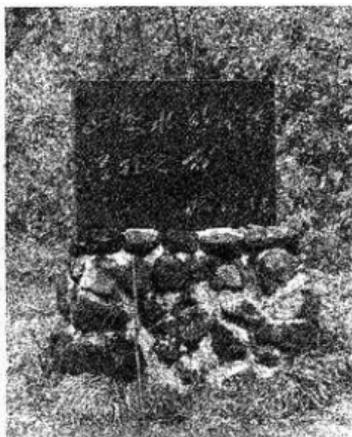
15 12 13



11



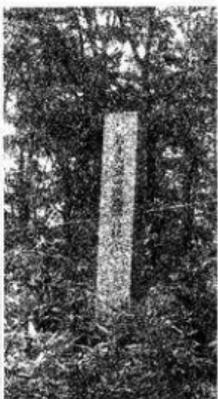
23	22	21	20	19	18	17	石 No. 碑	柳 沢 川
笠一 詰合 権目 現	受改 取所 権現			馬 返 し			地 点	石 碑 No. 内
1	1	5	4	3	2	1	2	銘 文 ・ (種 類)
(道程石) 一合目	(右側) (俳句あり) 奥の富士 英の富士 (左側) (漢詩あり) (裏面) 文政二乙卯撰仲夏甘露日 願主綾丁 高屋長兵衛 敬白 賦方 安庭村 若者中 車方方 新石丁 若者中	顯明 賦 進朗 実 岩手国体記念 滝沢村	(横書) 山紫水明風俗 浮村之 柳村兼見漢書 (裏面) 滝沢村山岳会創立十五周年記念之碑 昭和五十四年十一月吉祥日建立	(横書) 第10回 村民登山大会記念 昭和50年8月 滝沢村長 柳村兼見漢書	(横書) (下部角柱) 蔵手富士 昭和五年八月八日 三十一回登山記念 大坊直治 六十七才	建立 盛岡市 玉山村 西根町 滝沢村 岩手山登山道路改良記念 施工者 陸上白衛隊第三〇九施設隊 昭和三十九年十二月	地点 No.内	銘文 ・ (種 類)
	一八一九	一九七〇	一九七九	一九七五	一九三〇	一九六四	年代	
37.5	138	57	92	90	柱 122 コヤン 20	110	高寸	
15	35.5	70	122	120	33	26	巾法	
15	35	20	11	33	24	25	奥行 cm	
新しい標柱	愛する 漢詩とともに完全 解説困難のため割 る。	少年の像の前にあ る。	裏面に趣旨文と山 岳会員名あり。 (写真参照)				備 考	



20



18



17

21



19



22



23



31	30	29	28	27	26	25	24	石碑 No.	柳 沢 口
御三 立合 場権 現目	二合 五夕 目	二合 目	二合 目	一合 権現 目 (笠注連権現)				石地 碑点 No内	
1	2	1	1	5	4	3	2	銘文・ (種 類)	
(道程石)三合目	(道程石)二合五夕 紺屋丁 米谷其兵衛 六日丁 高屋全助	(道程石)二箇 (以下欠)	(道程石)二合目 紺屋丁市兵衛 幸助	(道標) 岩手毎日新聞社 寄付者 米沢勘一 右: 盛岡 左: 一本木	(ゴンケンサマ)	(ゴンケンサマ)	(石祠) (正面奥壁) * 大権現 (右側) 文政十一年 五月吉日 別当 佐次右工門 一長松(左側) 一本谷(右側) 三助木作工門 四助木作工門 四助木作工門 四助木作工門	年代	
	(江戸)		(江戸)			(二八二八)	一八二八	高寸	
40	84	33	64	38	11	15	81	巾法	
15	15	15	15	15.5	23	20	73	奥行	
15	12	13	14	12.5	24	24	57	cm	
新しい標柱					外にある。もと石 祠があったらしい。	置	21の石祠の中に安	備考	



24 25



一合目笠誌権現



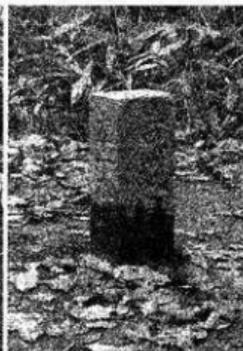
26



29



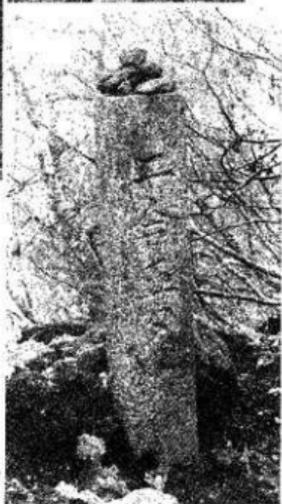
27



↑ 28



← 31

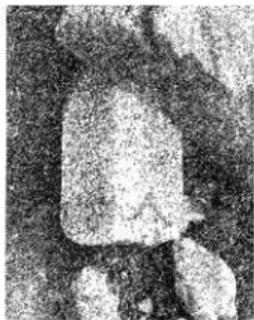


→ 30

39	38	37	36	35	34	33	32	石碑 No.	柳 沢 口
御六 藏合 権現目		五 合 目			四 合 目			石 碑 点 内	4
2	1	3	2	1	3	2	1	石 碑 点 内 No.	4
(道程石) 六合目 新通 〔 <small>坂橋御</small> 〕	(道程石) 六合目	(道程石) 五合目	(道程石) 〔 <small>上欠</small> 〕 五夕 田島屋 〔 <small>米屋彌助</small> 〕	(道程石) 五合目 同 大上 〔 <small>穀町 大工 金助</small> 〕	(道程石) 四合目	(道程石) 四合 〔 <small>以下欠</small> 〕	(道程石) 四合目 〔 <small>大工 重之助</small> 〕 〔 <small>團屋丁 油屋</small> 〕	銘 文 ・ 〔種 類〕	
				(江戸)			(江戸)	年 代	
65	66	47	33	52	56	28	72	高 寸	
15.5	15	15	15	15	15	15	16	巾 法	
12	15	12	11.5	12.5	15	12.5	12	奥 行 cm	
	〃	新しい標柱			新しい標柱			備 考	



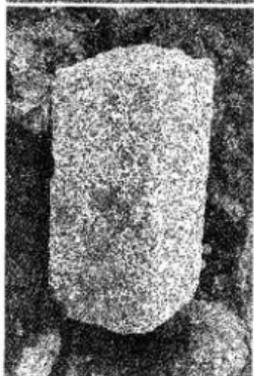
34



33



32



36



35



39



38



37



42



41



45



44



43



48



47

46

56	55	54	53	51・52	50	49	石 No. 碑	柳	
							地 点	沢 口	
							御 不 動	九 合 日	
8	7	6	5	3・4	2	1	石 No. 碑	6	
							銘 文	(種 類)	
[浮彫不動明王坐像] 志和新田村全□図	[浮彫不動明王立像] 嘉永三戊五月吉日 別當 石工武兵衛 五月吉日	[石燈籠一對] 享和二年 五月吉日 奉納 國家安全 五穀成就 安政五戊午年 五月廿七日	(竿石) 安政五戊午年 奉納 五穀成就	[石燈籠一對] 文政五年五月廿七日 (右側) 五穀成就 (正面) 巖鷲山 (左側) 國家安全	[浮彫不動明王立像] 小田島 八幡丁 小原 年二月吉日 日 工兵(不明)	[道程石] 九合日 材木丁			
一八五〇	一八〇二	一八五八		一八三二	一八〇二		年代		
總像 48 27.5	本体像 71 46	100	60	116	本体像 56 37	60	高 寸		
總 29						15.5	巾 法		
						12.5	奥行 cm		
	台高 14.5 cm	火袋を失う。	竿石・台石のみ。		台高 11 cm		備 考		



50 49



51
52



↑ 55

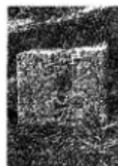


53
54

← 56



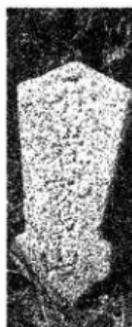
不動岩「御不動」



59



58



57

59	58	57	石碑 No.	柳 沢 口
	御九 不合 動日		地 点	
11	10	9	石碑 地点 No.内	7
(標柱) (上欠) (右側)定次 野立	(石宝剣) 不動明王 中村園五 内村佐兵衛	(石宝剣) 岩鷲山 (裏面)地主 平野氏	銘文・(種類)	
			年代	
12	57	36.5	高	寸
13	19	17.5	巾	法
13.5	12	7	奥行	cm
			備考	

五、山頂の石造文化財

概説

範圍 山頂の火口壁であるお鉢を左手に進み、最高地点薬師岳を経て、お鉢の内部（御殿）に入り、中央火口丘妙高岳の麓にある奥宮を経て再びお鉢の柳沢口取付きに戻るまでを「山頂」の範圍とした。

造立数 山頂の石造文化財の造立数は五九件、一三二基である。お鉢には二組の三十三観音石像が立ちならび、奥宮にはゴングンサマ十五頭をはじめ多くの石造物が奉納されている。

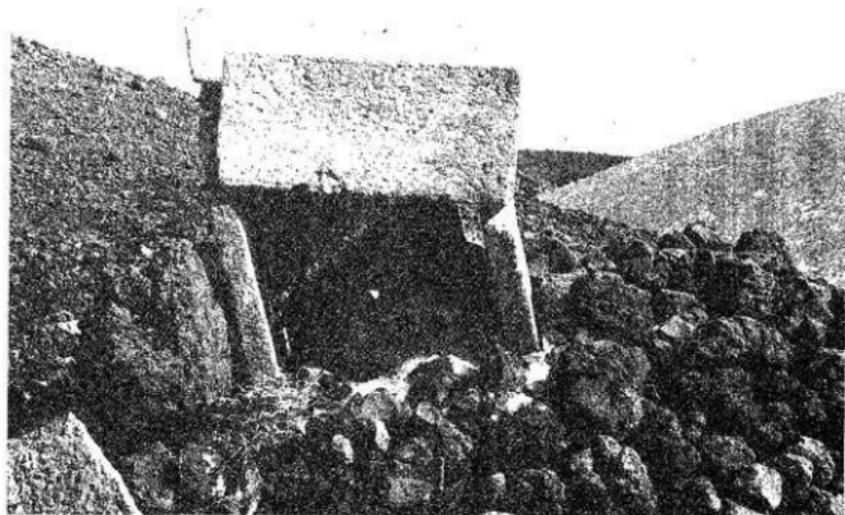
お鉢・柳沢口取付（一升目・虚空蔵権現こくうざうけん） お鉢取付地点の不動平側に石柱が倒れている。No.60道標（昭和4）がこれで、「向正面下ル奥宮参道 左御鉢廻り道」と刻まれている。ここからお鉢内部へ下れば奥宮はすぐなのであるが、参詣の道は左手にお鉢を進み、頂上薬師岳を踏破してから内部に入つて奥宮に向う。祈禱詞もその順であり、三十三観音石像もこの地点に第一番があり、お鉢上に並べられ、頂上を経て奥宮の側に第三十三番が建てられている。盛岡講中奉納三十三観音像は安政四年、花巻町中村巳吉奉納像は明治三九年（大正四年）の建立である（66頁以下参照）。この地点に石祠がありゴングンサマが祀られている。祈禱詞の順では「虚空蔵権現こくうざうけん」にあたる。

『内史略』によると文政二年に盛岡の町人により一合目から一升目まで道標十本が建てられ、「一升目は大慈寺八世恵親和尚寄附也」とあるが（15頁参照）、この一升目の道程石は発見できなかった。

お鉢・柳沢取付く平笠口取付 お鉢内部の直下には噴火口「御室みむろ」が口



お鉢・柳沢口取付、左奥宮、右不動平



お鉢・平笠口取付「熊野権現」

を開け、その奥に頂上薬師岳が見える。お鉢の道筋には三十三観音石像が御室に顔を向けてたち並んでいる。柳沢取付から平笠口取付までの石造物は殆んどがこの二組の三十三観音で、この間の全石造物四〇基のうち盛岡講中奉納の観音像は十六基、花巻中村巳吉奉納は二二基である。

また、この間の拝所として祈禱詞は「月山権現」と「八幡菩薩」を掲げている。月山権現を示す拝所は見つからないが、祈禱詞に「月山島海羽黒」とあるところからこれら出羽の山岳のある方向のお鉢の西南部あたりに登り道がやや緩かになるところがあり、このあたりにあったものであろうか。東側が見え御米迎を拝する頂上に対して西端にあたるこの場所は月を拝する意味を兼ねているかも知れない。八幡菩薩は平笠口取付の手前に八幡神社の石祠（No.100・昭和4）があり、ここかも知れない。平笠口すぐ手前には享和元年の薬師如来坐像No.112がある。

お鉢・平笠口取付（熊野権現） 北口平笠不動からの登山道取付地点で安永年間の石祠No.116の中にゴンゲンサマが祀られ、No.114熊野大権現と刻む碑が建てられている。熊野権現の拝所である。熊野権現は紀伊国（和歌山県）の熊野の神で日本第一の霊場とされ、本宮、新宮、那智の三所権現と称し、阿弥陀如来、薬師如来、観音菩薩を本地として、この三尊はNo.116石祠にも種子（仏・菩薩を表わす種子）で刻まれているが（乳キリーク阿弥陀、キペイ薬師、イサ観音）、仏さまの中で古来最も人気のある三尊で、実はこの三尊は岩鷲山大権現の本地仏でもある。

お鉢・平笠口取付（頂上） 頂上までは緩かな登りで、盛岡講中奉納三十三観音像が二基、花巻中村巳吉奉納観音が一基建てられている。

頂上薬師岳（薬師如来） お鉢の北西端に岩手山の最高地点（標高二〇四〇・五m）があり、薬師岳と呼ばれている。岩鷲山大権現の本地三尊のうち薬師如来がこの峰にあてられ拝所となっている。石祠No.119の中に



お鉢・平笠口取付付近から頂上薬師岳をみる

薬師如来坐像が安置されているが昭和の奉納で、その他の石造物も古くはない。最も風雨にさらされる所なので欠損が早いせいであろうか。ここには三十三観音像も見当らない。

お鉢・頂上く清水観音 頂上からお鉢通りの道は急勾配の下り坂となる。内部の乳房形の中央火口丘妙高山が美しい。その麓に下りる地点に岩塊があり清水観音（キヨミズサン）としている。この間の石造物は全て三十三観音石像で、盛岡講中奉納七基、花巻中村巳吉奉納五基の計十二基である。風化のため札番を読み取れないものもあるが、この地点の観音像は札順通りに建てられていないものが多い。

清水観音 お鉢の内部を「御殿」と呼び、その入口にある岩塊が清水観音で拝所となっている。ここには嘉永二年本丁八百屋勤之丞建立の十一面観音立像No143があり、細部まで丁寧に彫った優品である。

観音菩薩は岩鷲山大権現本地三尊仏の一つであるが、特に清水観音とされるのは、征夷大將軍坂上田村麻呂が東征の際、京都東山の清水観音（清水寺・十一面観音）に深く帰依し、私邸を寄進して伽藍を興し、征夷を成し遂げた由緒によるものであろう。岩鷲山大権現は田村大明神とも号され、岩手山にまつわる田村麻呂伝説は多い。

そのほか盛岡三十三観音二基と持経観音像もある。

清水観音く奥宮 妙高山の麓の道は全く平坦で奥宮もすぐ近くにある。

この間に三十三観音の最終の札番の石像が並んでいる。花巻町中村巳吉奉納観音は三十一番No145、三十二番No146、三十三番No147と順に並び、盛岡講中奉納観音は三十二番No144があり、奥宮のすぐ手前の胎内清りの岩の所に三十三番千手観音立像No148がある。この像には安政四年の年号があり八日丁新八他の名が刻まれている。同所には三十三観音を刻んだ八日丁石工勘治子供長太の建立した碑No149がある。柳沢口取付を起点にお

鉢に並べられた三十三観音像は、奥宮をもつて詣り納めの三十三番とするのである。

奥宮(御本社) 妙高山の東南麓にあり、石積により奥殿・拝殿の如く二つに区画されている。奥殿の部分は一段高くつくられ、石祠とゴンゲンサマが祀られている。石祠は現在まで形を保っているのは二棟で、安永八年(一七七九)永井清太郎奉納のものNo.166と慶応二年(一八六六)零石町大和屋権治奉納のものNo.167である。「巖手山記」に「三祠の石殿並建きたるは即ち岩手山神社奥宮にして三柱の大神を祀る」とあり、近年まで三棟の石祠があったことがわかる(一棟は崩壊)。岩手山神社の三神とは主神 顯國魂大神大穴牟遲命(大國主命)、宇迦之御魂命、倭建命で、この三神をそれぞれの石祠に祀ったものであるが、これは明治以降のことである。奥宮(御本社)の祈禱祠には「御宮本社は三社の権現」とあり、江戸後期には三祠の形ができて上がっていたことが知られる。ではこの三祠に祀られていたのは阿弥陀、薬師・観音の岩鷲山大権現三本地仏であろうか。筆者は否と考える。零石では古来から中央の堂宇を零石の御本社と考えていたという(岩手山)。これは「零石町大和屋権治」奉納の石祠(慶応2、No.167)であろう。安永八年石祠No.166には「正一位岩鷲山大権現」とあり、おそらく当初はこの一祠で、次第にそれぞれ御本社として石祠を奉納したか、あるいは田村明神として祀ったかして、三祠の形になったものであろう。

石祠のまわりにゴンゲンサマが十五頭奉納されており、最古のものは寛政十二年(一八〇〇)No.169である。そのほか奥殿にあたる場所には石宝剣(Na.172文政10)や狛犬(Na.173・明治32)、石燈籠(Na.176・明治正8)などが奉納されている。

奥殿の前、拝殿にあたる所は岩手山中で最も古い石造物が奉納されている地点である。即ち、明和八年(一七七七)「巖鷲山石宝剣一銘の石宝

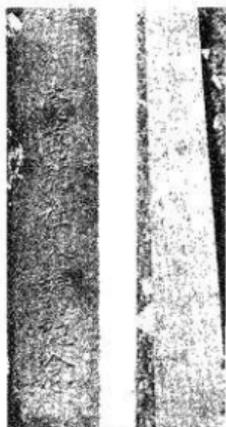
剣No.168がそれである。また、No.169天明六年石宝剣、No.170寛政九年石宝剣も岩手山の中では最も古い時期に属す。奥殿の石祠No.166もこの時期の建立であり、このことは岩手山の中で奥宮が信仰の場所として最初に整えられたことを示している(前述、14頁参照)。もともと、前述の通り(13頁)、貞享三年(一六八六)の噴火以前に自光坊が阿弥陀・薬師・観音(岩鷲山大権現本地三尊)の石仏を御殿(お鉢の内部)に建てており、同じく噴火関係文書に「御幣、山上に納め候事 岩屋焼崩れ、小社立て候も風烈にて罷成らず……」(「巖手山記」とあり、当時既に石祠があったことをうかがわせている。しかし、これらは別当などによる特別な例とみられ、それから八五年間は石造物が見当らず、岩鷲山信仰が一般化し、各拝所が整えられるのは一七〇〇年代の後半からである(13・14頁)。

社前の石造物は安政五年石燈籠No.35・36以外は全て明治以降で、もう一对の石燈籠No.33・34は明治二十九年、石鳥居No.32は明治四十三年であり、岩手山神社興隆期の建立である。社前でひととき目を引く石塔は岩手中学校旗樹立記念の岩手山神社奥宮碑(昭和4、No.168)と、北白川宮御登拝記念碑(昭和15、No.169)である。前者は岩手山中最大の石材を用いた碑で高さが三四〇cmあり、後者は石材を積み重ねていて総高四二〇cm程で最大の石塔である。ともに岩手山神社の最盛期を象徴する石造物である。また、興味深いのは皇軍将兵武運長久祈願碑No.171である。「背負揚人」として二人の名があり、「石重量五十一貫」とある。五十一貫は一九・二五kgに当たる。

奥宮は火口丘妙高山の麓にあり、丁度妙高山を拝むような位置関係にある。妙高山とは本来は仏教の世界観で世界の中心にある高山の名である。須弥山ともいい、仏壇を須弥壇というのもこれに由来する。岩鷲山の三本地のうち、薬師は頂上「薬師岳」、観音は「清水観音」にあてられるが、「妙高山」こそ主尊阿弥陀如来にふさわしいものであろう。



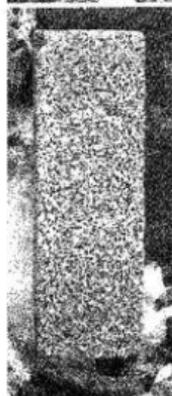
「清水権現」十一面観音石像（嘉永2年）



60



お鉢柳沢口取付



64



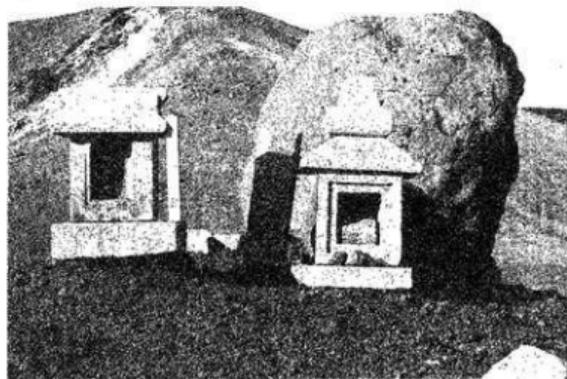
63



62

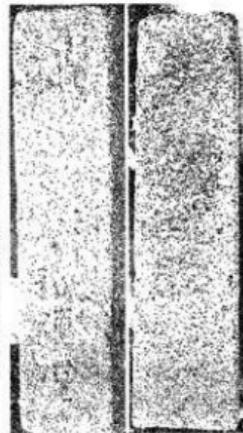


61



69

67 68



65

66



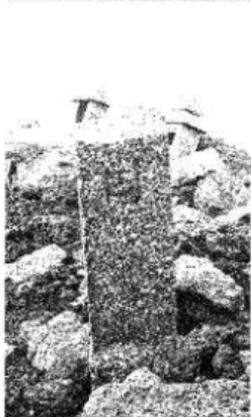
72



71



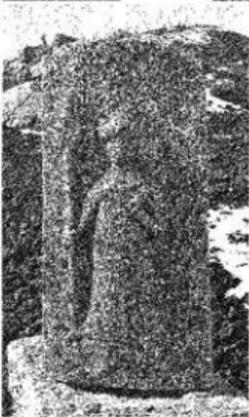
70



77



74



73



77



76



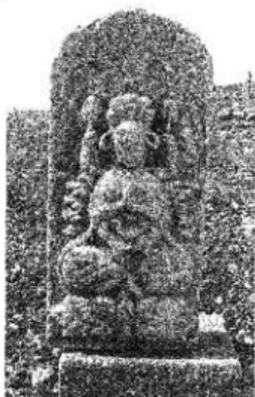
75

								石 No. 碑	山 頂
85	84	83	82	81	80	79	78	地 点	
									3
								地点 No. 内	
								銘 文 ・ 〔種 類〕	年 代
								寸 高	
								法 布	備 考
								cm 奥行	
八番 〔浮彫十一面觀音立像〕	九番 〔浮彫不空索觀音坐像か〕 花巻町 中村巳吉	七番 〔浮彫如意輪觀章坐像〕 大工丁 八兵衛	八番 〔浮彫十一面觀音立像か〕 花巻町	六番 〔浮彫千手觀音坐像〕 十文字 世話人 傳助	七番 〔浮彫如意輪觀音坐像〕 花巻 中村巳吉	五番 〔浮彫千手觀音坐像〕 八日丁 世話人作之助	六番 〔浮彫千手觀音立像〕 中村巳吉		
總 47	總 64	總 68	總 64	總 70	總 65	總 70	總 60		
像高42		像高33	像高30	像高36	像高19	像高35			
盛岡講中奉納觀音 の第8番。 白石欠。	中村巳吉奉納觀音 の第9番。	盛岡講中奉納觀音 の第7番。	中村巳吉奉納觀音 の第8番。	盛岡講中奉納觀音 の第6番。	中村巳吉奉納觀音 の第7番。	盛岡講中奉納觀音 の第5番。	中村巳吉奉納觀音 の第6番。		

80



79



78



83



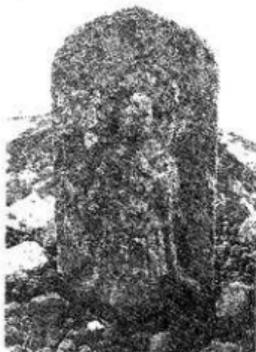
82



81



85



84



93	92	91	90	89	88	87	86	石 No 碑	上
								地 点	頂
お 柳沢口 ↓平笠口取付 鉢									
21	20	19	18	17	16	15	14	石 地点 No 内	4
<p>十一番 (浮彫准貳観音坐像か) 像容は千手観音にみえる。 山岸村 長右エ門</p> <p>十二番 (浮彫如意輪観音坐像) 中村巳吉</p> <p>十三番 (浮彫如志輪観音坐像) 同右 西国十番三室戸寺は千手観音である。</p> <p>十四番 (浮彫准貳観音立像か) 同右</p> <p>十五番 (浮彫准貳観音立像か) 像容は聖観音か十一面観音のようにみえる。 花巻 鐵之助</p> <p>十六番 (浮彫准貳観音坐像) 中村巳吉 明治四十二年五月</p> <p>十七番 (浮彫准貳観音立像か) 像容は聖観音のようにみえる。 花巻町 中村巳吉 明治四十二年五月</p> <p>十八番 (浮彫准貳観音立像か) 像容は聖観音のようにみえる。 八口丁 千助</p>								銘 文	(種 類)
								年 代	
総高74	総高71	総高70	総高67	総高74	総高65	総高65	総高69	高 寸	
像高35	像高35	像高41	像高40	像高34	像高34	像高30.5	像高41	巾 法	
								奥 行	cm
盛岡講中奉納観音の第11番。	中村巳吉奉納観音の第13番。	盛岡講中奉納観音の第10番か。	中村巳吉奉納観音の第12番。	盛岡講中奉納観音の第9番。	同第11番。	中村巳吉奉納観音の第10番。	盛岡講中奉納観音の第3番。	備 考	

88



91

87



90

86



89



91



93



92



側面



101	100	99	98	97	96	95	94	石 No. 碑	上
								地 点	頁
								石 No. 地点 No.内	5
29	28	27	26	25	24	23	22	銘 文 ・ 〔種 類〕	
十七番 〔浮彫十一面観音立像〕 □占 □古 □升松	十七番 〔浮彫十一面観音立像〕 中村巴古	十六番 〔浮彫千手観音立像〕 八日丁 同 新□郎	十六番 〔浮彫千手観音立像か〕 八日丁 久治 像容は十一面観音のよう にみえる	十三番 〔浮彫如意輪観音坐像〕 八日丁大□ 赤川 大和屋□□	十九〇七 〔浮彫聖観音立像〕 明治四十年	十二番 〔浮彫千手観音立像〕 八日丁 赤川 長之助	十四番 〔浮彫如意輪観音坐像〕 中村巴古		
総高72	総高75	総高72	総高70	総高70	総高77	総高70	総高70	年 代	
像高40	像高45	像高43	像高45	像高34	像高42	像高43	像高39	高 寸	
								巾 法	
								奥 行 cm	
盛岡講中奉納観音 の第17番。	中村巴古奉納観音 の第17番。	盛岡講中奉納観音 の第16番。	中村巴古奉納観音 の第16番。	盛岡講中奉納観音 の第13番。	中村巴古奉納観音 の第15番。	盛岡講中奉納観音 の第12番。	中村巴古奉納観音 の第14番。	備 考	

96



99

95



98

94

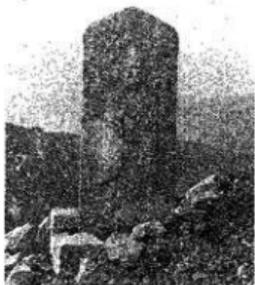


97



101

100



109	108	107	106	105	104	103	102	石 No 碑	山
								地 点	頂
								石 No 碑	地点 No 内
37	36	35	34	33	32	31	30	銘文・〔種類〕	
(石祠) 八幡神社 昭和四年九月	沼宮内町 藤村金造	大工丁 九治 巴之助	大工丁 吉田 勇之助	大工丁 大工棟梁甚七 中村巳吉	明治四十一年五月 油丁 久兵衛	明治二十九年五月 中村巳吉	明治二十九年五月 中村巳吉	銘文 〔種類〕 十九番は千手観音(華蓋)であるが、この石像は一面が聖観音にしかみえない。 十九番は千手観音(華蓋)であるが、この石像は一面が聖観音にしかみえない。	
一九二九		一九〇八		一九〇八			一九〇六	年代	
68	総高74 像高42	総高71 像高41.5	総高75 像高35	総高70 像高42	総高74 像高35		総高78 像高38	高 寸 法 cm	
								奥行	
	盛岡講中奉納観音の第19番。	中村巳吉奉納観音の第21番。	盛岡講中奉納観音の第18番。	中村巳吉奉納の第20番。	盛岡講中奉納観音の第14番。	同第19番。	中村巳吉奉納観音の第18番。	備考	

104



103



102



106



側面

106



105



109



108



107



山							石 No. 碑	地 点	石 点 内 No.	7
116	115	114	113	112	111	110				
お 平笠口取付鉢							お 柳沢口 ↓平笠口取付鉢			
4	3	2	1	40	39	38	銘文・〔種類〕			
(石祠) 諸人為志	(裏側) 沼宮内 諸人 鑿右エ門	熊野大権現 圖丁長太	(標柱) 岩鷲山 沼宮内拱待中	如來 〔浮彫菜師如來坐像〕 享和元辛酉五月吉日 石工 武兵衛	米沢六兵衛 同〔〕治 〔浮彫菜師如來坐像〕 花巻四日町 中村巳吉	明治四十一年五月 二十一番 〔浮彫觀音立像〕 花巻四日町 中村巳吉 二十番 〔浮彫十一面觀音立像〕 明治四十二年五月 二十三番 〔浮彫十一面觀音立像〕 中村巳吉	〔一七〕番は千手觀音〔總持寺〕であるが、この石像は聖觀音の姿である。			
一七八	一七七一		一八二〇	一八〇一	一九一〇	一九〇八	年代			
	20	72	100	總高64.5	總高70	總高70	高寸			
	27	33	13	像高30	像高43	像高42	巾法			
	27		13				奥行 cm			
	113の石祠の中にある。		お鉢からやや下に 倒れ落ちている。		同第23番。	中村巳吉奉納觀音 の第22番。	備考			

112



111



110



112



側面

114



113



116 側壁



116



115

127	126	125	124	122・123	121	120	119	118	117	石碑No.	山頂
菜頂 師 岳上								お平笠口取付鉢 ↓頂上菜師岳		地点No.	8
8	7	6	5	3・4 (狛犬)	2 (菜師如来坐像)	1 (石祠) (裏側) 昭和七年七月三日 南無菜師如来 本尊奉納者 出口孝一 正晴	3 番五十二 (浮彫観音坐像) 二十五番は千手観音(清水寺)であるが、この石像は聖観音の姿である。	2 廿四番 (浮彫十一面観音立像) 園治丁 花屋丁 源八	1 〔浮彫聖観音立像か〕 本丁 材木屋勇助	銘文・〔種別〕	
(石柱)	(石宝剣) 奉獻	(菜師如来坐像)	(手水鉢) 奉納								
		總高61	20.5	總高46	像高12	50		總高74	總高66.5	年代	
		像高45	28	像高24				像高48	像高48	寸法	
			19.5							奥行	cm
銘文不明				伸總高52 像高30	脚の石祠内安置		中村巳吉奉納観音の第25番。	同第23番か。	盛岡謙中奉納観音の第21番か。	備考	



119



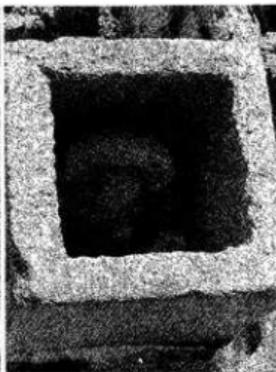
118



117



122 123



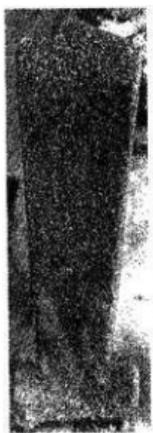
121



120



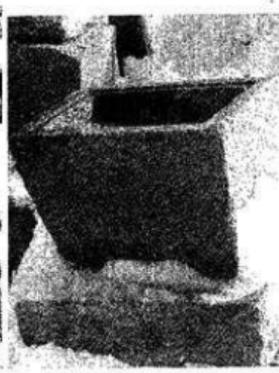
127



126

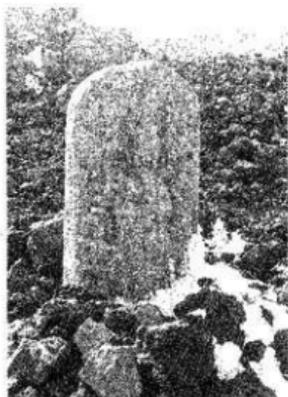


125



124

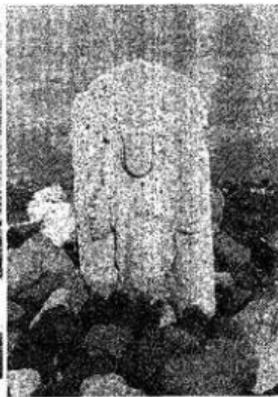
135	134	133	132	131	130	129	128	石 No.	山
								地 点	頂
頂 お ↓奥 宮 上 鉢								石 No.	内
8	7	6	5	4	3	2	1	9	
廿九番 (浮彫馬頭観音坐像) 馬頭 中村佐兵衛	(浮彫聖観音立像) 像容は十一面にもみえる。	三十番 (浮彫千手観音立像) 同村	廿七番 (浮彫如意輪観音坐像) 花巻町 中村巳吉	番 (浮彫聖観音立像) 同村八日町 仁右エ門	番 (浮彫千手観音立像) 八日町 宇八 富 徳太郎	番 (浮彫十一面観音立像) 中村巳吉	一 番 (浮彫千手観音立像) 大園 梅木屋久太	銘 文	・ 〔種 類〕
									年 代
総高75	総高66	総高68	総高68	総高72	総高72	総高67	総高53	高	寸
像高40	像高36	像高40	像高31	像高43	像高43	像高39	像高39	巾	法
								奥行	cm
盛岡講中奉納観音の第29番。	中村巳吉奉納観音の第28番か。	盛岡講中奉納観音の第30番。	中村巳吉奉納観音の第27番か。	同第26番か。	盛岡講中奉納観音の第22番か。	中村巳吉奉納観音の第26番か。	盛岡講中奉納観音の第20番か。 台なし。	備 考	



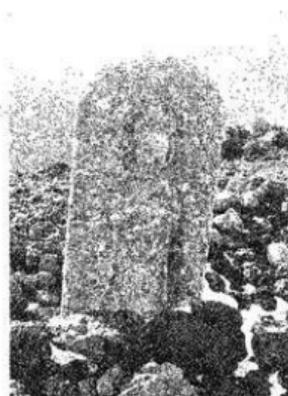
130



129



128



133



132



131

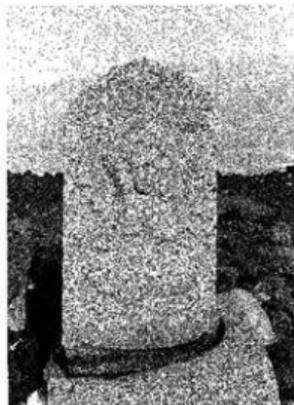


135



134

143	142	141	140	139	138	137	136	石 No. 碑	山		
お 清水観音 鉢				頂お 上 ↓清水観音 鉢				地 点	頂		
4	3	2	1	12	11	10	9	石 No. 碑	10		
嘉永二酉年五月吉日 (十一面観音立像) 本丁 八百屋 勤之丞				大正四卯年建立 (浮彫馬頭観音坐像) 中村巳吉				銘文・(種 類)			
(持経観音立像)				廿四番 (浮彫十一面観音立像) 花屋町 田				廿五番 (浮彫千手観音立像) 松田屋 中野屋 □兵衛			
同丁 青物問屋 金太良				廿七番 (浮彫如意輪観音坐像)				三十一番 (浮彫千手観音坐像) 真館			
一九四九				一九一五				年代			
総高118 像高65				総高47 像高35				総高70 像高38			
55				総高70 像高35				総高59 像高33			
55				総高61 像高41				総高61 像高41			
同第27番。				盛岡講中奉納観音 の第24番。 台なし。				同第31番。 台なし。			
同第30番。				中村巳吉奉納観音 の第29番。				盛岡講中奉納観音 の第25番。 台なし。			
備考				備考				備考			



138



137



136



140



139



↑
141
←



143



142

150	149	148	147	146	145	144	石 No. 碑	山
							地 点	頂
							石 No. 碑 内	11
お 清水観音 ↓奥 宮 鉢								
7	6	5	4	3	2	1	銘 文 ・ 〔種 類〕	
天 壤 無 窮 皇紀二千六百年紀元節 奥羽電燈株式会社 スキー山岳部	三十三番観音 八日丁石工勘治子供 長太爾 五月吉日	册二 番 〔浮彫千手観音立像〕 安政四巳年 十中 一原 一屋 傳助	册三番 〔浮彫千手観音立像〕 花巻町 中村巳吉	册二番 〔浮彫千手観音立像〕 花巻 中村巳吉	册一番 〔浮彫千手観音立像〕 中村巳吉	册三十一番 〔浮彫千手観音立像〕 安庭村 工口六歳 七太		
一九四〇	一八五七	(一八五七)				(一八五七)	年 代	
		総高76 像高42	総高68 像高38	総高58 像高37	総高58 像高42	総高58 像高34	高 寸 法 奥 行 cm	
	盛岡講中奉納観音 の石工。	盛岡講中奉納観音 の第33番。	同第33番。	同第32番。	中村巳吉奉納観音 の第31番。	盛岡講中奉納観音 の第32番。	備 考	



146



145



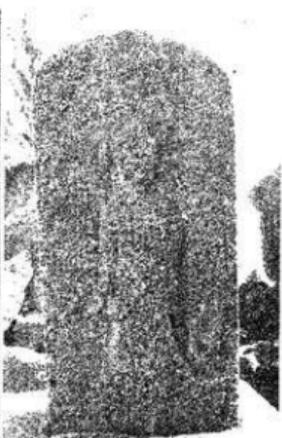
144



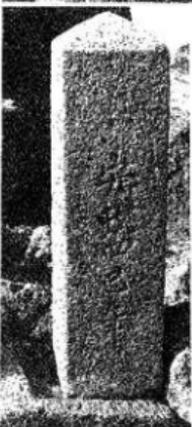
149



148



147



150



奥宮直前

165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	石 No. 碑	山
奥 (奥 殿) 宮															地 点	頂
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	石 No. 地点 内	12
(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	(ゴングンサマ)	銘 立	[種 類]
(後部) 石切 三郎	(後部) 出 行 平 巻 村 高 橋 英 吉			(後部) 奉 納 明 治 三 十 四 年 板 井 倉 松 旧 五 月 廿 七 日 金 尾 羅 権 現	(後部) 奉 納 寛 政 十 二 年 平 七 村 工 六 良 工 石 工 武 兵 工 五 月 廿 七 日	(後部) 推 平 助 四 郎						(後部) 納 奉 大 和 百 太 郎	(後部) 南 岩 郡 團 村 木 村 安 兵 衛 同 邸 八 日 丁 米 沢 勤 治	(後部) 石 兵 衛 工		
				九〇一	一八〇〇										年 代	
14	19	16	19	16	26	17	20	17	20	24	23.5	23.5	20	18	高 寸	
6	21	21	21.5	21.5	33.5	20.5	18	23	23	23	36	27	21	27	巾 法	
17.5	24	25	23	18.5	30	25	21	22	31	24	36	25	20	24	興 行 cm	
									銘 あり (不 明)						備 考	



154



153



152



151



157



158



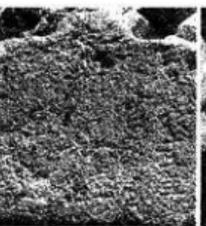
156



155



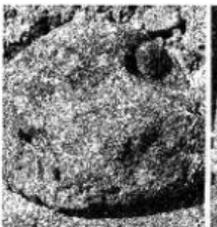
161 刻銘



160



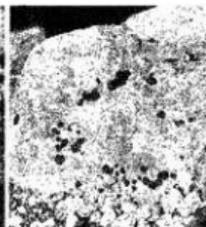
159



165



164

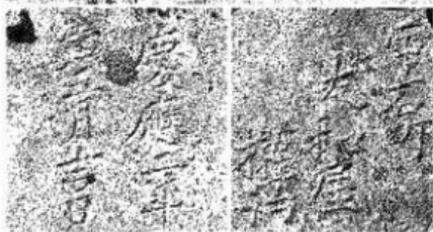


163



162

176 ・ 177	175	173 ・ 174	172	171 /	170	169	168	167	166	石 No 碑	山 地 点 眞
奥 (奥殿) 宮											
26 ・ 27	25	23 ・ 24	22	21	20	19	18	17	16	石 地点 No 内	13
(石燈籠) 本 花屋町 石工大畑栄青郎	(扁額) 巖手山 昭和十一年 出六月十六日	(狛犬) 盛納 岡 明治卅二年 旧五月 (人名多数)	(石宝剣) 奉納 子 戊文政十 五月	(石宝剣) 奉納	(石宝剣) 奉納 岩手山 九月二十五日 出頭村工藤龍三 石工上藤善吉	(石柱) 姉帯久之丞 昭和拾二年 (表側)	(石柱) 室谷永助	(石祠) 零石町 大和屋 榎治 慶応二年 寅五月吉日 (左側)	(石祠) 正一位岩鷲山火権現 安永八巳 五月二十七日 鍛冶町 永井清 大良	銘 文 ・ (種 類)	
一九・九	一九三六	一八九九	一八二七	60	一九二七			一八六六	一七七九	年代	
117/91	32		66					54	88	高	寸
	20.5							44	102	巾	法
								24.5	36	奥行	cm
一基は 火袋を失う。 一基に 「二戸浪浪打村」										備 考	



167



166

168
169



172



171



170



176

177

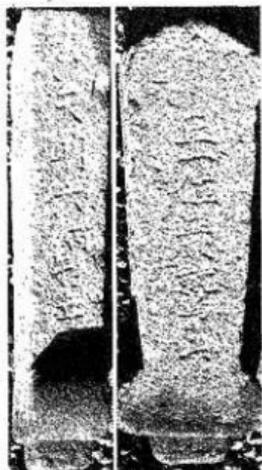


175

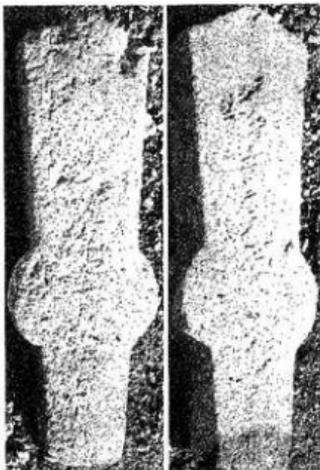


173 174

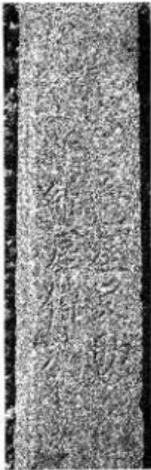
187	185 ・ 186	184 ・ 184	182	181	180	179	178	石碑 No.	山
								地 点	頂
								(社 前)	
								奥 (拝 殿) 宮	
37	35 ・ 36	33 ・ 34	32	31	30	29	28	石地点 No.内	14
(浮彫八幡神立像)	(石燈籠) (竿) 奉納 安政五年 (竿) 国家安全 奉納 五月吉日	(石燈籠) (竿) 明治二十九年 御神燈 中五月廿七日 (台) 築起人 田頭村 遠藤徳松 渡辺栄作 百七十七名	(石鳥居) (竿) 明治四十三年五月二十七日 御明神村 安本徳治郎 家内一同	(石宝剣) (右側) 五月吉日 (前面) 巖鷲山 宝剣 (左側) 明和八辛頭 (表側) 石上永井清太良	(石宝剣) 正一位 巖鷲山 大明六丙午年 五月吉日	(石宝剣) 奉納銀石 田頭村 作右衛門 寛政九年己丑月田頭日 中夏廿八日	(石柱) 龜屋文助 綿原傳八	銘文・ (種 類)	
	一八五八	一八九六	一九一〇	一七七一	一七八六	一七九七		年代	
総高56	49/78	138	170	48	71	71	61	高寸	
像高44			178	21	25	25		巾法	
				8	11	11		奥行 cm	
	一基は竿石のみ。 一基は火袋から上 を失う。	台に多数の名あり。						備 考	



180



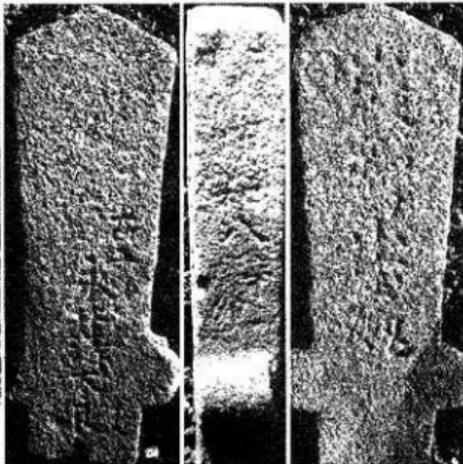
179



178



182



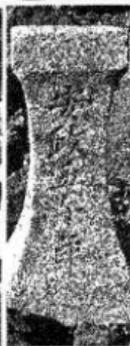
181



187



185



186



183



184

No.	地点	石碑No.	銘文・(種類)	年代	寸法		備考
					高	幅	
188	奥宮 (社前)	38	奉 縣社岩手山神社奥宮 人夫世話人 柳澤 佐々木市郎 石工 川村芳太郎 (石側) 盛岡水扇校運隆昌 昭和四年九月五日建之 岩手中学校校長鈴木早苗敬書 (裏側) 校旗樹立記念 昭和二年九月五日 曉天樹立 於山頂 米澤 乙松 山口 善平 川村佐太郎	一九二九	340	60	46
189		39	奉 納 岩手山神社 安本徳治郎 家内一同 石工 大正五年五月廿七日	一九二六	154	49	7
190	奥宮 (社前)	40	北川宮成久王殿下御登拝記念碑 皇軍將兵武運長久祈願 岩手縣知事雪澤千代治書 (右側) 石重五十一貫 背負揚人 昭和十四年五月二十七日 岩手郡西山村西集崎 代林松之助三十一才 上中屋敷清三十五才 (五十貫五匁) 一九二二(五匁)	一九四〇	約420		
191		41	岩手郡西山村 (左側) 頼人上野勘治郎 西山村 田中 勇刻	一九三九	78	25	38

〔190〕(北川宮登拝記念碑下部銘文)

私カニ惟レバ大正四年八月八日畏クモ 北川成久王殿下ニ御登攀山頂ニ於テ社司小原見麿ヲ召サレ岩手山神社ノ益々隆昌ナラムトヲ努
 メヨトノ御令旨ヲ賜ハレリ當時金枝玉葉ノ尊貴ヲ以テ高山ニ登攀シ玉ヘル例殆ンド絶無ナリシヲ以テ恐懼感激ヲ措カザル所ナリシガ殿下ニハ更ニ
 名刀一口ヲ御寄進遊バサレ岩手山神社ノ光榮愈々顯著ナルモノアリ尋テ大正五年十一月十八日社格ヲ縣社ニ進メラル四民ノ崇敬益盛ニシテ登山者
 年々其數ヲ加フルコトニ至レリ而シテ當社方記元二千六百年ヲ記念センガ爲メ此碑ヲ山頂ニ建ツルニ當リ本縣出身内閣總理大臣海軍大將米内光政
 閣下親シク題字ヲ賜ヒ又地元出身藤倉源氏ハ進ンテ建碑一切ノ費用ヲ負擔セラル乃チ其ノ由ヲ碑面ニ動シテ水ク其篤志ヲ表彰ス

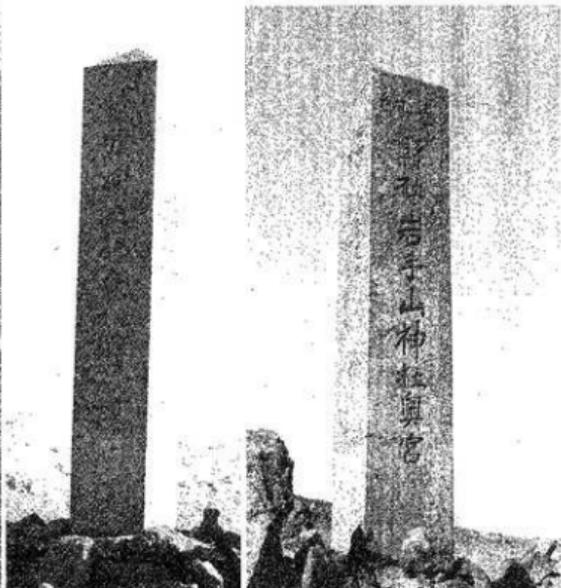
昭和十五年九月

從三位勲二等功五級

上村勝爾謹誌



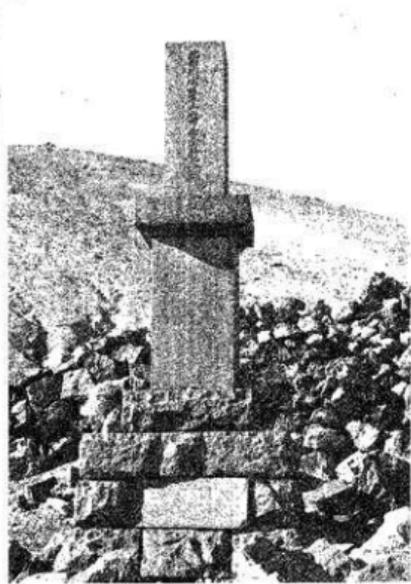
189



188



191



190

三十三観音石像

観音信仰と観音巡礼 観音菩薩は日本で最も人気のある仏さまである。

『観音経』(法華経 観世音菩薩普門品)は三十三身に姿をあらわして人々を救うという観音の現世利益を説き、平安後期以降には来世安楽を求める阿弥陀浄土信仰が高まるとともに観音菩薩に対する救済的来世信仰が盛んになり、観音霊場を廻(まわ)り行(な)りして巡礼することによって次第に罪障を消滅し、永遠の救いを得ようとする観音巡礼が生まれた。

三十三所観音霊場 巡礼霊場が最初に成立したのは近畿地方の西国三十三所観音霊場で平安時代後期とされる。三十三所の数はむろん観音の三十三身に因むものである。その後、鎌倉時代には関東地方に坂東三十三所、室町時代に秩父三十四所が成立、ようやく一般民衆が巡礼に参加するようになる。岩手県内での最も古い霊場の確実な例は糠部三十三所で永正九年(一五二二)の巡礼札が鳥越観音堂(一戸町)に伝えられている。

三十三観音 江戸時代には各地に三十三所の地方霊場が生まれ、巡礼が盛んになったが、本家の西国三十三所がやはりもつとも有名で、各地の寺院などにはその土地に居ながらにして礼拝できるよう西国三十三所観音霊場の本尊を模した木像や石仏が造られた。岩手山の三十三観音石像もこの西国三十三観音である。

なお、三十三観音には二種類あり、三十三種類の観音を集めた三十三観音は室根山(室根村)などにその石仏が祀られているが、これはその殆んどがなじみの薄い名前の観音さまで、数は非常に少ない。ここで問題にしている三十三観音は、観音を本尊としている寺院・お堂を三十三カ

所巡礼するものであって、したがって同じ姿、同じ名前の観音さまが何度も登場する。西国三十三所観音の場合は聖観音、十一面観音、千手観音、如意輪観音、馬頭観音、不空罽索観音、准胝観音のいわゆる七観音で三十三観音にあてられている。

西国三十三所観音と佛命寺の三十三観音 西国三十三所霊場は第一番を能野那智山の青岸渡寺として近畿各県を回り、三十三番の詣り納めは岐阜県谷汲の華厳寺であった。この尊像を模した例として佛命寺の三十三観音があげられる。佛命寺は盛岡城下八幡町北裏にあった浄土宗の寺で、盛岡の大仏で知られている。伝えによると元禄三年(一六九〇)西成(または西往)が開山、京都から三十三観音を調えたという。文化三年(一八〇六)火災にあい再建できずに廃寺となり、三十三観音などの仏像は本寺の大泉寺(盛岡市中央通一丁目)に移安された。今回は岩手山の三十三観音石像の像容をみる上での参考として佛命寺三十三観音を掲載した。なお、佛命寺三十三観音像の尊名・尊容は、本来の西国三十三所観音とはほぼ一致している。但し、後世の修理のとき台座の入れ違い(六番と十八番)や、霊場名の書き違い(二十番竹生島宝厳寺が二休あり、二三番勝尾寺が無い)などがある。

岩手山頂お鉢の三十三観音石像 二組の三十三観音石像があり、ともに西国三十三所の三十三観音である。お鉢の柳沢口取付地点が第一番で、お鉢の内部・御殿に向けて並べられ頂上薬師岳を経て奥宮のすぐ手前の胎内滞りの岩の所に第三十三番が建てられている。札番(巡拝霊場の順)通りに並べられるのが筋であるが、どちらの石像にも多少の順番違いがみられる。

西国三十三所観音石像が岩手山頂に安置された理由としては、(1)江戸後期において観音巡礼が盛んに行われ、各地に西国三十三所を模した霊

場が作られ、また、寺院などに西国三十三所の本尊を模した木像・石仏が設けられていたこと。(2)若手山登山は難行を伴うものであり、難行苦行によつて罪障を消滅する巡礼本来の意義に達うものであり、立地として若手山頂はふさわしい地点であること、があげられるが、更に(3)若手山は観音霊場でもあること、つまり、観音菩薩は岩鷲山大権現の三本地仏の一つであること、および、若手山は坂上田村麻呂にまつわる伝説が多く、岩鷲山大権現は田村明神とも称されていたが、坂上田村麻呂が東征にあつて崇敬したのが京都の清水観音(清水寺)であり、山頂の大岩を清水観音にあてるなど、若手山と観音菩薩の関係は深いこと、によるものであろう。

(A)盛岡講中建立三十三観音石像 安政四年(一八五七)現在三二一

『内史略』(后二十)に「丁巳同年(安政四年)閏五月十二日 惣市中兼々信仰の者より 岩鷲山へ麓より御殿(山頂お鉢の内)迄の間 参詣の道しるべ 三十三観音の像 石にて彫り奉納。右講中 同日白木綿観音の像 背に染め、上着に用ひ参詣。夕顔片原丁に神楽等これあり、往来筋大に賑ひ、参詣群集す。此の賦、方人足七百人也と云々」とあつて、当日のにぎわいと道しるべ(道程石)も同時に建てられたことが知られる。奉納者は盛岡の八日丁(現本町通二丁目)を中心とする町人で、町名のわかる二〇基の内訳は、八日丁1、大工丁3、花屋丁2、油丁1、本丁1、國治丁1、馬町1、山岸1、安庭村1、大國1である。

像容は一覧表のとおり、西国三十三所観音に殆んど忠実であるが、十番とみられる像が聖観音に造られている。十番三室戸寺の本尊は千手観音であるが、帰命寺の十番像も聖観音に造られている。三室戸寺には本尊の千手の他に、来迎阿弥陀三尊中の聖観音もあつて信仰をあつめていたので、あるいは石仏はこれを探つたものかも知れない。なお、十五番、

二四番にあたる像は見つからなかつた。

石工はNo.10の奉納碑に「三十三番観世音 八日丁石工勘治子供 長太淵」と刻まれている。作技は当時の一般的なものであるが、(B)花巻町中村巳吉建立像と比べるとはるかに丁寧であり、姿も良く、出来は良い。また、光背を二重縁で縁取つてゐることで(B)と区別できる。風化により刻銘も読み取れないものもあるが、一番・七番・十八番の如意輪観音、五番・十二番・十九番・三十三番の千手観音、二十二番の十一面観音、二十九番の馬頭観音などは比較的保存状態も良い優品である。また、二十九番馬頭観音を馬町の中村佐兵衛が奉納しているのも面白い。いずれ、この盛岡講中建立三十三観音像は江戸後末期の岩鷲山信仰の最盛期を象徴する石造文化財として重要な存在である。

(B)花巻町中村巳吉建立三十三観音像

明治三十九年(大正四年(一九〇六)現存三二一

明治三十九年頃から十年間にわたつて奉納した三十三観音である。(A)と同じくお鉢の柳沢口取付地点を第一番とし、(A)とほぼ交互に建てられている。これも西国三十三所観音であるが、像容は簡略で必ずしも札番の観音に忠実ではなく、特に千手、十一面、聖観音はほぼ同じ姿に見えるものが多い。石工は不明で作技も優れたものではないが、独力で十年を要して建立した情熱には驚かされる。当時は若手山神社の整備期であり神社神道による若手山信仰の高揚期であつた。

なお、中村巳吉は昭和二年(一九二六)には分レに若手山神社の石造大鳥居No.3を建ててゐる。

三十三観音対照一覽

札順	西国三十三所観音霊場	本尊観音	佛命寺	石碑 No.	札番路	尊容	紀年 銘	その他の銘	(A) 盛岡講中建立像(安政4)	石碑 No.	札番路	尊容	紀年 銘	その他の銘	(B) 花巻町中村巳吉建立像(明治39)大正4
16	清水寺	清水	千手	②	十六番	千手	八日丁 久治郎		②	十六番	十一面	明徳四年			
15	觀音寺	京都市 今熊野	十一面						96カ		十一面			中村巳吉	
14	三井寺	京都市 東山区	如意輪	③	四番	如意輪	油丁 久兵衛		99	十四番	如意輪			中村巳吉	
13	石山寺	京都市 大津市	如意輪	④	十三番	如意輪	八日丁 赤川 長之助		90	十二番	如意輪			花巻	
12	正法寺	京都市 伏見区	千手	⑤	十一番	准胝か	山岸村 長右衛門		91	十一番	十一面	明治 四年		中村巳吉	
11	上醍醐寺	京都市 東山区	准胝	⑥	十番	聖観音	八日丁 綱風赤治		92	十番	聖観音か			中村巳吉	
10	三室戸寺	京都市 東山区	千手	⑦	九番	不空羅索	鉄之助		93	九番	不空羅索か			花巻町	
9	興福寺南円堂	奈良市	不空羅索	⑧	八番	十一面			94	八番	十一面			花巻町	
8	長谷寺	初瀬町	十一面	⑨	七番	如意輪	大工丁 八兵衛		95	七番	如意輪			中村巳吉	
7	網重寺	高市郡 明日香村	如意輪	⑩	六番	千手	十文字 世話人 傳助		96	六番	千手			中村巳吉	
6	滋坂寺	奈良市 高取町	千手	⑪	五番	千手	八日丁 世話人 傳助		97	五番	千手			中村巳吉	
5	葛井寺	藤井寺	千手	⑫	四番	千手	八日丁 久助		76カ		千手			中村巳吉	
4	施福寺	大阪府 桜尾山町	千手	⑬	三番	千手	八日丁 千助		74カ		千手			花巻	
3	粉河寺	粉河町	千手	⑭	二番	十一面			73	二番	十一面				
2	紀三井寺	和歌山県 智勝浦町	十一面	⑮	一番	如意輪	八日丁 同八百屋田太		98		如意輪				
1	青岸渡寺	和歌山県 火車峠町	如意輪	⑯	一番	如意輪	五月 吉日				如意輪				

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
華嚴寺	觀音正寺	長命寺	宝嚴寺	松尾寺	成相寺	円教寺	一乘寺	清水寺	中山寺	藤尾寺	總持寺	穴太寺	善峰寺	(兼)行願寺	(六)頂角法堂寺	六波羅密寺
岐阜縣谷汲村	安土町	近江八幡市長命寺町	滋賀県東浅井郡比叡町生島	舞鶴市松尾	京都府高槻市京府西稻寺	近畿市書写	北加部町	加東郡社町	兵庫縣宝塚市中山寺	箕面市栗生間谷	大阪府茨木市総持寺町	京都府龜岡市曾我部町	大原野小塚町	中京区六角通	中京区六角通	京都市東山区松原通
十一面	千手	千手	千手	馬頭	聖觀音	如意輪	聖觀音	千手	十一面	十一面	千手	聖觀音	千手	千手	如意輪	十一面
十一面	千手	千手	千手	馬頭	聖觀音	如意輪	聖觀音	千手	十一面		千手	十一面	千手	千手	(如意輪)	十一面
⑬	⑭	⑮	⑯	⑰		⑱	⑲カ	⑳	㉑	㉒カ	㉓カ	㉔カ	㉕カ	㉖	㉗	㉘
卅二番	卅二番	卅二番	卅二番	廿九番		廿七番	卅番	廿五番	卅四番	卅二番	卅番			十九番	十八番	十七番
十一面	千手	十一面	千手	馬頭		如意輪	聖觀音	千手	十一面	十一面	千手	聖觀音	千手	千手	如意輪	十一面
安土町八幡 五月廿日																
八日丁 同新八幡	安土町 工六 仁太	貞鏡	同村	馬町・馬八 中村佐兵衛		同青物間屋 金太良		松出屋 中野屋兵衛	花屋丁	花屋丁 源八	八日丁 宇八 宮徳太郎	本丁 村木屋勇助	大國 梅木屋久太	大丁丁 巳之助	大丁丁 九治	大丁丁 梅榮善七
⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕カ	㉖カ	㉗カ	㉘		㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
卅三番	卅二番	卅番	三十番	二十九番	卅番	卅七	卅番	二十五番		二十三番	二十一番	二十一番	二十番	十九番	十八番	十七番
十一面	千手	千手	千手	馬頭	聖觀音	如意輪	聖觀音	十一面		十一面	十一面	聖觀音	十一面	十一面	如意輪	十一面
			大正四年 五月							明治四十二年 五月			明治四十二年 五月		明治四十二年 五月	
中村巴吉	花巻町吉				中村巴吉	花巻町吉	中村巴吉								中村巴吉	中村巴吉

1番



婦命寺三十三観音像

(木造)

2番



3番



4番



岩手山頂三十三観音像

(盛岡講中建立)





8番



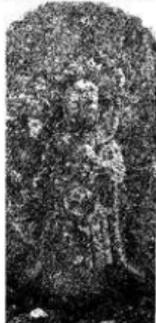
7番



6番



5番



12番



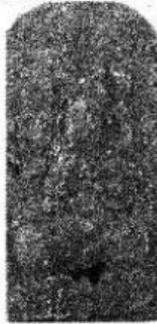
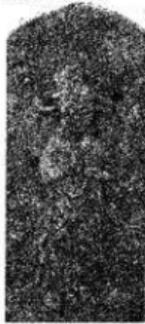
11番



10番



9番





16番



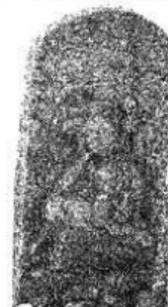
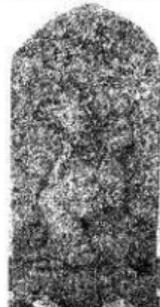
15番



14番



13番



20番



19番

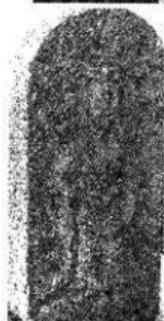


18番



17番







33
番



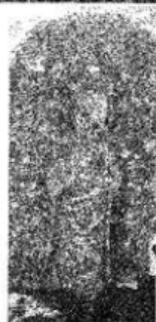
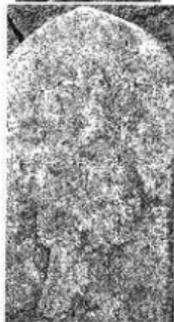
32
番



31
番



30
番



六、平笠口の石造文化財

概 説

範圍 国天然記念物焼走りの北方にある上坊岩手山神社（西根町平笠）から平笠不動を経て、熊野権現で山頂お鉢に取付くまでを「平笠口」とした。

造立数 平笠口の石造文化財の造立数は二六件、四一基である。地点別では、岩手山神社が十一件、十七基で最も多く、登山道に文政五年建立の道程石が九基現存しており、平笠不動には古い石造物が多い。

上坊岩手山神社（新山堂・新山権現） 北口の里宮で、別当は大蔵院であつた。寛文十年（一六七〇）野火で焼失し、再興された記録がある（「厳手山記」所載大蔵坊記録）。一对の石燈籠が四組あり、最古の天保九年No.204と慶応二年No.198・199の石燈籠には「岩鷲山」と刻み、安政二年の石燈籠No.192・193には嚴鷲山大権現のほか、不動明王、三十六童子、阿弥陀三尊、葉節如来と岩鷲山に関係のある尊名が刻み込まれていて興味深い。

石造物は江戸後期のものと、近年のものに大別される。神社の現地地点より更に西側に古上坊跡という所があり、そこにも石碑があるという。近年の石造物では大黒天石像（大黒主命）No.203は岩手山神社の主神大穴牟遲命（顕國魂大神）の別名であり、聖観音石像No.206は岩鷲山大権現三本地仏の一である。

二合目 文政五年（一八二二）の道程石No.202があり、田頭村（田頭）と刻まれている。平笠口登山道には文政五年の道程石が一合目から八合五た

目まで九基ある。「内史略」により文政二年に柳沢口登山道に道程石が建てられたことが知られ（15頁参照）、平笠口の道程石建立はそれに刺激されたものであろう。

二合五夕目 二合五夕目の道程石があり、そこからまもなくの地点に石祠がある。拝所に違いないが銘文は無く、平笠口の祈禱祠は順路通りでないので拝所の名称はわからない。

三合目・駒形権現 三合目には道程石と石祠が並んで建てられている。これも拝所の名称はわからないが、そこから約二百米のところは駒形権現がある。慶応二年石燈籠No.204には馬形大権現とある。

三合夕目 三合目付近からはコメツガ林の急坂を登る。三合五夕目に道程石が建てられている。

五合目（鶴嘴） 急坂を登り切ると焼走りからの新登山道との合流点ツルハシである。ここから道は緩やかになり、まもなく石祠No.211がある。鶴嘴権現を祠つたものであろうか。五合目まではコメツガやミヤマハンノキの林があり、この地点から真上の頂上方向にかけては急斜面に火山砂礫が露出推積し「御砂子」と呼ばれている。ツルハシはその砂礫の部分が下方へ張出し、雪が降ると白くなり、あたかも鶴が嘴を伸ばしているように見えるのでツルハシといわれている。

五合五夕目（三十六童子） 五合五夕目にある大焙岩塊を三十六童子と呼んでいる。三十六童子とは本来は仏教を守護する三十六人の神王で三十六天あるいは三十六善神と呼ばれるものであろうが、岩手山にある焙岩塊を三十六童子に見立てて礼拝したものである。但し、三十六童子と呼ばれる岩塊はかつてはお鉢の内部にあつたらしく、貞享三年の噴火の記録に「御山三十六童子の岩も相見え申さず様に石砂を上げ御座候」とか、「御嶽へ上り見申し候えば三十六童子御座候一切見え申さず平地に罷



登山道三合目

成候」(「巖手山記」所載)と記されている。

五合五夕日道程石No.219のほか近年の石祠No.220と首のない石地藏No.219がある。

六合目・六合五夕目 それぞれ道程石が一基ある。このあたりは滑岩石の急坂の道で、平地になったところで前方に平笠不動の岩峰がそびえ、六合五夕日の道程石があり、左手には山頂お鉢が見える。

平笠不動 岩手山を真東から見ると北肩のあたりにトゲのように屹立する小岩峰がある。これを柳沢口の不動岩(御不動)に対して平笠不動と称している。柳沢不動と同じくこれも旧外輪山の始端となっていて山頂との間は平地となり、これまた柳沢口と同じく不動平と呼んでいる。岩の下が拝所となっていて、天明九年(一七八九)石祠No.221があり、岩手山の中では山頂とともに最も早くから整えられたことが知られる。

注目是要するものとしては文政六年(一八二三)石宝剣No.222がある。これには「奉新此度撰待小屋建立」と刻まれていて、平笠口撰待小屋の設置年代が知られる。柳沢撰待小屋の四年後のことであり、小屋跡は不動岩の少し手前にある。

七合五夕目・八合五夕目 平笠不動からお鉢へは急坂の直登路で、途中に二基の道程石があり、三十分ほどでお鉢の熊野権現に取付く。

岩手山上坊神社講中の祈禱詞

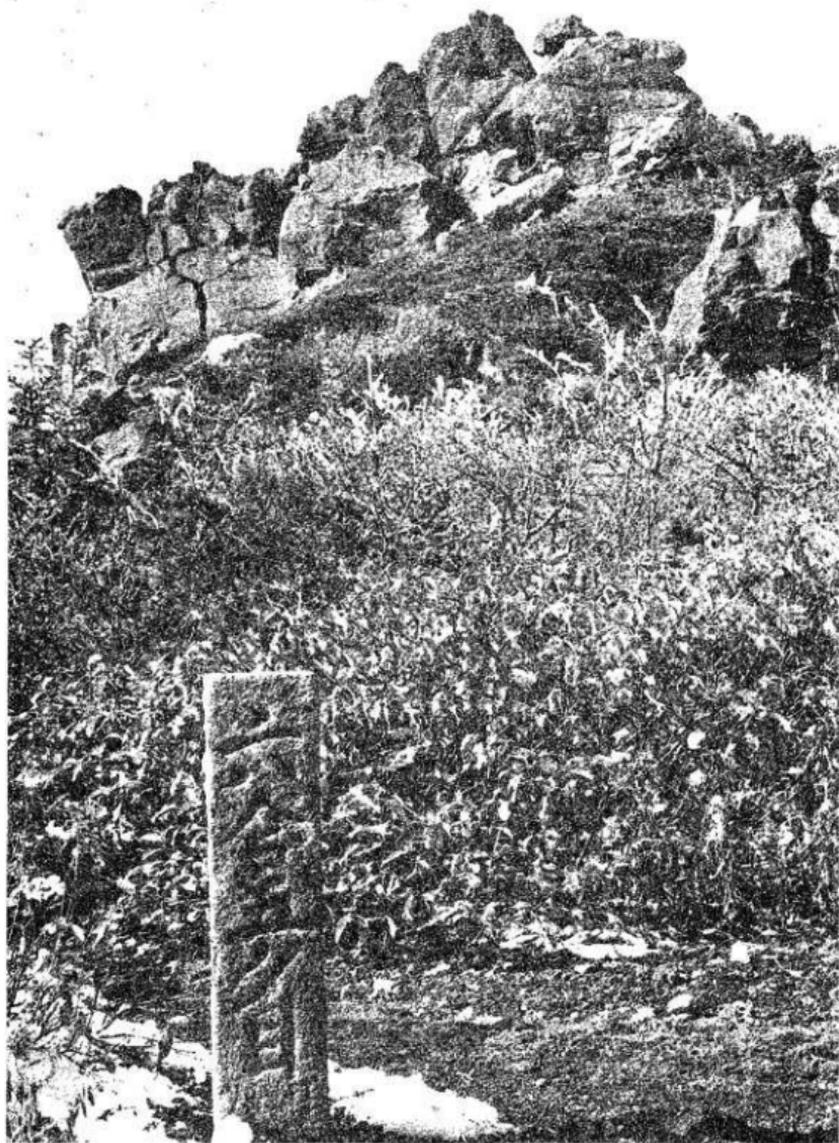
(登山道の拝所順とは無関係であるが参考のため掲載する)

拝詞

南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 御注連に八大金剛童子の時礼拝

(二返唱ふる)

一、南無空には梵天帝釈口流日月八流雷王子天子皇々々雷口天月天



六合五夕目から「平笠不動」を仰ぐ

御注連に八大金剛童子の一時礼拝

二、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 伊勢神明天照大神内宮外宮 大の岩戸に大日如来 御注連に八大金剛童子の一時礼拝

三、南気熊野は日本第一大領権現けん社公法 八社はゆや三所の権現やく一王子やく王一万の げんぞく十万の金剛童子の懺悔々々は六根罪消 前罪所々々々一時に消滅内示は後力宿願がいりよう満足一時礼拝

四、南気湯殿は神体量部第一大権現 御滝に大照は不動明王米山薬師体内権現 大場権現弘ひ川に八大金剛童子の一時礼拝

五、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 かつた蔵王権現御注連に八大金剛童子の一時礼拝

六、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 御沢に八万八千仏御峯に十万八千仏十國天皇 皇子天皇日天月天御注連に八大金剛童子の一時礼拝

七、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 ツキシ山月山鳥海荒沢羽黒は三所の権現 御注連に八大金剛童子の一時礼拝

八、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 金峯蔵王権現御注連に八大金剛童子の一時礼拝

九、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 八祥山お滝大所は不働明王御注連に八大金剛童子の一時礼拝

十、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 大沼浮島大明神の御注連に八大金剛童子の一時礼拝

十一、南無正一位岩鷲大権現注連の子 お峯は三十六童子お宮本社は三社の権現田村明神のきの王子は一時に御本尊はわらはばぎの一時礼拝

十二、南無頂礼懺悔々々六根罪消 月山月山六日座の 御注連に八大金剛童子の一時礼拝

三、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 南無大悲々々の清水観音御注連に八大金剛童子の一時礼拝

六、南無東方淨瑠璃光世界医王天十日光十二大願 十二神所は薬師淨瑠璃光如来七千夜又四方願力方若い罪所は闕識削除の一時礼拝

七、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 お釜にお苗代お水や権現御注連に八大金剛童子の一時礼拝

六、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 御山大將は不働明王上り夜叉下り妙見王子げんぞく一時礼拝

七、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 お沢に三十六童子御注連に八大金剛童子の一時礼拝

六、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 南無大悲々々の新山権現御注連に八大金剛童子の一時礼拝

六、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 南無大悲々々の元宮権現御注連に八大金剛童子の一時礼拝

三、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 玉東山姫神権現御注連に八大金剛童子の一時礼拝

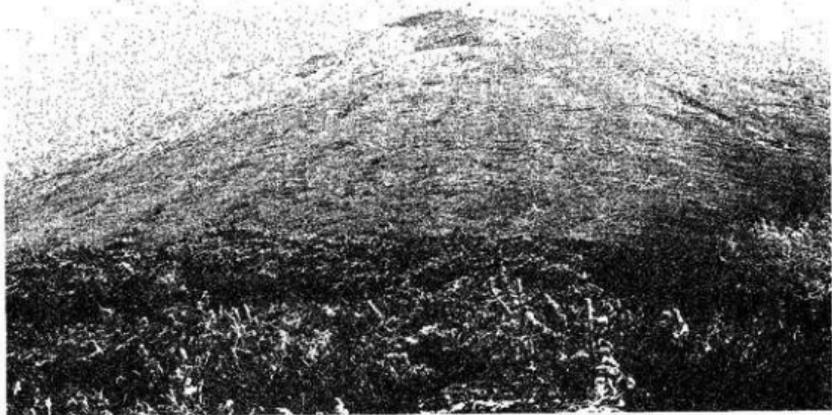
二、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 内宮金毘羅大権現の御注連に八大金剛童子の一時礼拝

三、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 二十二夜は徳大師の清志菩薩の御注連に八大金剛童子の一時礼拝

三、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 土佛の親世首菩薩の御注連に八大金剛童子の一時礼拝

三、南無正一位志和稲荷は日本三社の明神大明神 十法だんのきり本社だんの宿願がいりよう満足一時礼拝

三、南無帰命頂礼懺悔々々六根罪消 福一萬虚空蔵菩薩の御注連に



平笠不動から岩手山頂をみる

八大金剛童子の一時礼拝

二六、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

稻荷八幡正八幡の御注連に八

大金剛童子の一時礼拝

二七、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

兜の明神大明神の御注連に八

大金剛童子の一時礼拝

二八、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

天照皇大神八坂神社御注連に

八大金剛童子の一時礼拝

二九、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

稻荷神社御注連に八大金剛童子

の一時礼拝

三〇、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

夏間木駒形神七御注連に八大金

剛童子の一時礼拝

三一、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

葉師如来御注連に八大金剛童子

の一時礼拝

三二、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

大悲々々の王山親世首菩薩御注

連に八大金剛童子の一時礼拝

三三、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

三王権現御注連に八大金剛童子

の一時礼拝

三四、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

諸神諸仏諸大権現諸菩薩 御注

連に八大金剛童子の一時礼拝

三五、南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

諸神諸仏諸大権現諸菩薩 御注

納め

南無婦命 頂礼懺悔々々六根罪消

御注連に八大金剛童子の一時礼

拝(納めを七唱する事)

(岩手山上防神社 伊藤織信氏の騰写資料による)

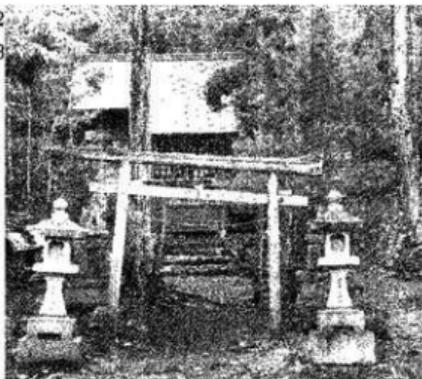
平笠口の石造文化財一覽

204 205		203	202	200 201	198 199	196 197	194 195	192 193	石 No. 碑	平 笠 口	地 点	1	銘 文 ・ 〔種 類〕	年 代	高 寸	巾 法	裏 行 cm	備 考	
										岩 手 山 神 社									
13 ・ 14		12	11	9 ・ 10	7 ・ 8	5 ・ 6	3 ・ 4	1 ・ 2	石 碑 No 内										
〔石燈籠〕 〔卒石〕 大更横間村 久治 天保九戌年七月十日		〔大黒天像〕 〔卒石〕 大更横間村 久治 大 国 主 命 一 願 主 伊 藤 清 五 郎	〔石燈籠〕 〔卒石〕 荒木田村 恵教院 岩清水権現	〔狛犬〕 奉納 昭和十四年十月建立 盛岡市花屋町高橋仁助 石工 高橋仁助	〔石燈籠〕 〔卒石〕慶応元年 岩 鷺 山 五月廿五日 堀切 瀧法坊 石工 長之丞	〔石燈籠〕 〔卒石〕 西根町平野 納主 藤原伊藤清五郎 西根町大更 工藤直輝 納主	〔石燈籠〕 〔卒石〕 沼宮内講中 慶応二内寅年	〔石燈籠〕 〔卒石〕 安政二乙卯年 五月二十七日 南無阿弥陀仏	〔卒石〕不動明王 岩鷺山大権現 三十六童子 南無藥師如来 南無觀世音菩薩 南無阿弥陀仏				〔卒石〕南無勢至菩薩 南無藥師如来 南無觀世音菩薩 南無阿弥陀仏						
一八二八				一九三九	一八六五	一九七〇	一八六六	八五五											
117		總高137 像高62	72	總高205	140	206	210	170											
兩基同銘			火袋から上を欠失		両基とも火袋欠失		両基同銘												



192

193



上坊岩手山神社



198 199



196 197



194 195

← 204 203
205

202

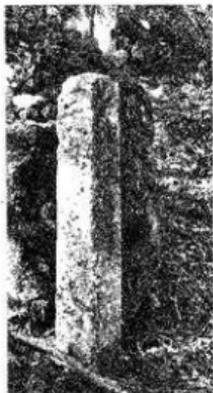


200 201

213	212	211	210	209	208	207	206	石碑 No.	平笠 口
	三 合 目	二合五夕目から 約百米地点	二合五夕目	二 合 目		岩 手 山 神 社			
2	1	1	1	1	17	16	15	石地点 碑No.内	2
(石祠)	(道程名) 三合目 午五月 	(石祠) 文政五年	(道程石) 二合五夕目 五月大吉辰 伊右工門 惣八	(道程石) 二合目 午文政五年 伊藤村 	昭和四十五年十月 巖手神社植林記念碑 西根町平笠 伊藤 清五郎	岩手山神社 岩手郡西根町平笠 伊藤 清五郎 一合一万五千円也	(聖観音立像) 岩手郡西根町大更 工藤 直輝 岩手郡西根町平笠 伊藤 清五郎 昭和四十六年五月吉日建之	(台) 岩手山新山神社 寄進者 岩手郡西根町大更 工藤 直輝 岩手郡西根町平笠 伊藤 清五郎 昭和四十六年五月吉日建之	銘文・(種類)
	一八三二		一八三二	一八三二	一九六六	一九六七	一九七一	年代	
60	63.5	70	100	60	210	120	総高177	高	寸
	13		13.5	14	120	39	像高80	巾	法
	11.5		11.5	11.5	33	38		奥行	cm
								備考	



									平	笠	口
222	221	220	219	218	217	216	215	214	石 No.		
六合五夕日 平笠不動手前	六 合 日		五合五夕日 二十六童子	五合五夕日 少し手前	三合五夕日	三合五夕日 駒形権現	三合日から 約二百m付近		3	地点 No.	3
1	1	3	2	1	1	1	2	1			
(道程石) 六合五夕日 五月吉日 文政五年	(道程石) 六 合 日 文政五年	(石 祠) 昭和五十二年七月 (右側) (左側) 岩手町川口 奉納者 大沢守 岡恒夫	(石地藏) 五月大吉辰	(道程石) 五合五夕日 五月大吉辰 	(石 祠) 文政五年	(道程石) 三合五夕日 五月大吉日 文政五年	(石 祠) 駒形 大正十二年七月 別當所 御宮内村	(石燈籠) 馬形大権現 六月十七日 導師 別當所 慶応二丙寅		銘 文 ・ (種 類)	
一八二二	一八二二	一九七七	39	一八二二		一八二二	一九二三	一八六六	年代		
54		50		61	71	81	44	73	高	寸	
13				13.5		13			巾	法	
11.5				13		11.5			奥行	cm	
			首欠失					火袋と宝珠を欠失	備	考	



216



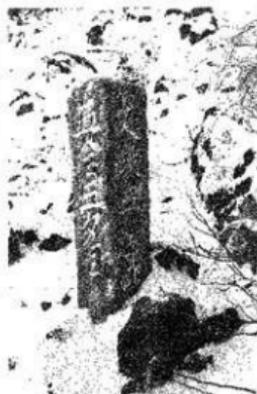
215



214



三十六童子



218



217



222



← 221

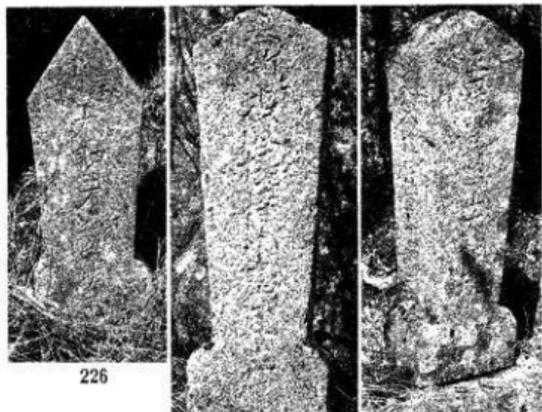


220



219

232	231	230	229	228	227	226	225	223 224	石 No 碑	平 笠 口
八合 五夕目	七合五夕目				平 笠 不 動					地 点
1	1	8	7	6	5	4	3	1・2	石 碑 No. 内	4
〔道程石〕 八合五夕目 文政五年 五月吉日	〔道程石〕 七合五夕目 文政五年 五月吉日	〔標柱〕 奉納 文政五年	〔ゴングンサマ〕	〔浮彫不動明王立像〕	〔石祠〕 （右側）天明九天 奉寄進 五月吉日 （左側）行者 田村万治郎 寺田松伯	〔石宝剣〕 納奉 田頭村工藤若松 大聖不動明王	〔石宝剣〕 正一位岩鷲山大権現 文政六年五月廿一日 （裏）奉新此度撰待小屋建立 大正十二年五月廿七日	〔標柱〕 奉納撰待中 同年 同月 村工藤弥八郎	銘 文 〔種 類〕	年 代
一八三三	一八三三				一七八九	一九二三	一八三三		高 寸	
108	77	80	32	總高48	72	52	59	74	巾 法	
13.5	12	14	34	像高31				13	奥 行 cm	
13	12	13.5	32					13	備 考	
								面基同銘。		

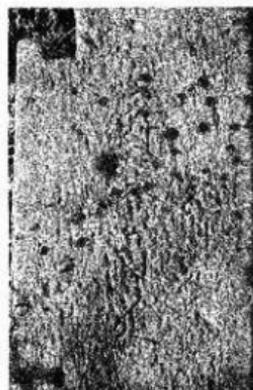


226



223

224



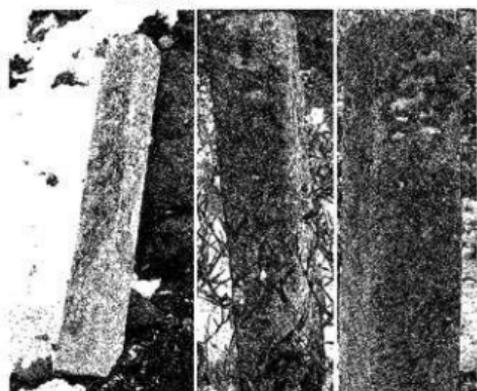
227側面



227



摂待小屋跡



232

231

230



229



228

七、礮石口の石造文化財

概 説

範圍 岩手山神社新山宮（礮石町大字長山頭無野）から御神坂駐車場を経て登山道により不動平御不動で柳沢口登山道と合流するまでを「礮石口」とした。

造立数 礮石口の石造文化財の造立数は十三件は十七基で、その殆んどは岩手山神社にある。但し、今回の登山道調査には調査もれがある。

岩手山神社（巖鷲山新山宮） 坂上田村麻呂が岩手山の悪鬼を退治したときこの地に一宿して攻め登ったという伝説があり、それによつてこの地を「野宿あるいは一の関」といい、巖鷲山田村大明神として祀つたという。「礮石歳代日記」に「延宝二年（一六七四）南部重直公、新山堂を再興す」とある。別当は円蔵院であつた。

岩手山神社には十件十四基の石造物がある。最古は天保四年（一八三三）石燈籠No.21で、江戸時代のものとして他に嘉永七年（一八五四）手水鉢No.23、安政六年（一八五九）狛犬No.23・24がある。他は明治後期以後の岩手山神社高揚期のものに、石鳥居や石燈籠があり、近年の復興を示すものに「岩鷲山新山宮由来」を刻んだ碑（昭和56、No.22）がある。登山道 今回は三基の石造物しか確認できなかったが、ゴンゲンサマや石鳥居等があり拝所であろうか。また、他に石祠もあるという。今後の調査を要する。

なお、礮石口の拝所としては円蔵院の記録に「瀧石かけ口の拝所 一、届岩 虚空蔵 滝明神 是れ也。一、御釜・御地獄ト申ス拝所ハ、

御天ヨリ末申（西南）ノ方ニ当ル拝所也。御祭礼ノ節、毎年此ノ所ヨリ硫黄取り指上ル也」（「岩手山」とある）。

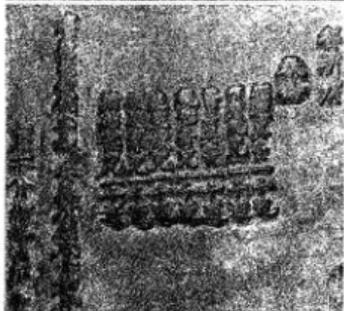
礮石口の祈禱詞

- (一) 南無帰命頂礼 サンゲサンゲ 六根罪消 オシメ八大 金剛童子ノ一時礼拝。
- (二) 正一位岩鷲権現、之メノ峯ハ 三十六童子 大宮本社ハ三所ノ権現 田村ノ明神 能氣ノ泉子 一時ニ御本尊 荒ハバキ 一時礼拝。
- (三) 南無東方 淨瑠璃光如来 七千夜叉 為法願力 通法皆罪消カイシ清浄 一時礼拝。
- (四) 南無帰命頂礼 サンゲサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ南無大悲ノ清水権現 一時礼拝。
- (五) 南無帰命頂礼 サンゲサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ南無大悲ノ不動明王 一時礼拝。
- (六) 南無上リ夜叉 下リ明見 王子眷族若王子 南無大悲 三社ノ権現 一時礼拝。笠詣権現。
- (七) 南無帰命頂礼 サンゲサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ南無大悲ノ御滝ノ明神 一時礼拝。
- (八) 南無帰命頂礼 サンゲサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ南無大悲 虚空蔵明王 一時礼拝。
- (九) 南無帰命頂礼 サンゲサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ南無大悲ノ新山権現 一時礼拝。
- (十) 南無熊野ハ 日本第一大権現 ケンシヤ寛リ夜叉 ユヤ三所ノ権現 若王子 若王子一萬ノ眷族 十万ノ金剛童子ノサンゲサンゲ 六根罪消前罪消 前罪ゴク一時二消滅 シリテ信実 宿願皆了満足



坂上田村麻呂伝説の大宮神社

巖鷲山宝印版木



一時礼拝。

(一) 南無帰命頂礼 サンギサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ

南無大悲ノ天照大神 一時礼拝。

(二) 南無大悲ノ新山大権現 ヤワタ八幡大菩薩 オシメ八大金剛童子ノ

一時礼拝。

(三) 南無大悲ノ月山鳥海 羽黒ハ三所ノ権現 オシメ八大金剛童子ノ

一時礼拝。

(四) 南無帰命頂礼 サンギサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ

早池峯権現 一時礼拝。

(五) 南無帰命頂礼 サンギサンゲ 六根罪消 オシメ八大金剛童子ノ

姫神権現 一時礼拝。

(六) 南無大悲諸神諸仏 諸大権現 諸菩薩 オシメ八大金剛童子ノ

一時礼拝。

嘉永六歳(一八五三)丑歳五月廿七日

岩鷲山大権現ニ参詣仕候

田中林太郎

〔岩手山〕所載「半石村下久保田中助左衛門家記録」

「山村民俗誌」昭和八年刊より

(二)に見える大宮本社は、雫石町大字西根字大宮の大宮神社で、延暦二十一年悪鬼退治のとき坂上田村麻呂将軍が本陣をしいた場所、岩鷲山州村明神として祀り、大きな宮があったので大宮と称するようになった伝え、宝石では大宮神社を巖鷲山の本社と称している。

平石口の石造文化財一覧

242	241	239 240	237 238	236	235	234	233	石 No 碑	平
岩手山神社								地 点	石 口
10	9	7 ・ 8	5 ・ 6	4	3	2	1	地点 No内	1
鎮守奉獻	(石燈籠)	(石燈籠)	(石燈籠)	(平水鉢)	御即位 大正天皇 皇紀二千六百年 西山村青年團上長山分団建立	(石鳥居)	(標柱)	銘文・〔種類〕	年代
昭和五十六年十一月八日	五穀成就	奉納 天候四癸巳歲 五月吉辰	奉納 昭和九年五月二十七日	奉寄進 五月二十七日 興兵衛	御即位 大正天皇 皇紀二千六百年 西山村青年團上長山分団建立	大正五年即位記念 境内植林 杉苗三千本	岩手山神社 昭和五十八年七月吉日	〔種 類〕	年 代
一九八一	一八三三	一九三四	一九三四	一八五四	一九四〇	一九〇五	一九八三	高寸	備考
169	120	140	158	55	130	約360	192	巾法	
77				51	50		34	奥行	cm
15				51	40		32		
				嘉永七年	五角石				



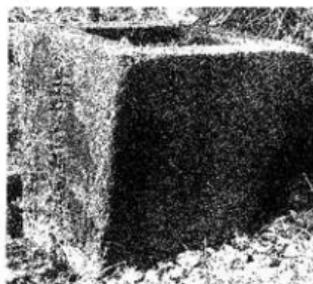
234



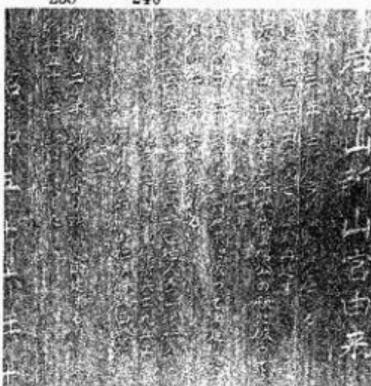
233



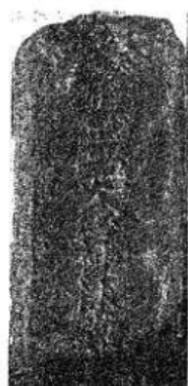
237 239 241
238 240



236



242



235

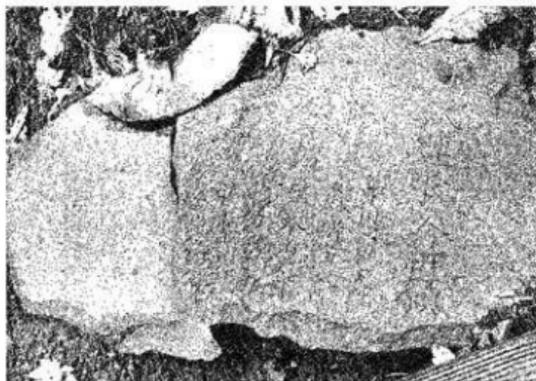
No	石	No	地	245 246	243 244	石	2	
							碑	点
249	248	247	245 246	243 244	石 <td>2</td> <td></td> <td></td>	2		
登山道 三km地点より 二百m上	登山道 三km付近	登山道 御神坂駐車場より 二・三km付近 (二の島居)	岩手山神社					
1	1	1	13・14	11・12	石	2		
(石島居)	(ゴンケンサマ)	年百六千二紀阜 武運長久祈願 中川市太郎 森崎市太郎 他七名の名あり	(石燈籠) (竿石) 明治廿三年	(狛犬) (台石横置) 奉納 安政六己未年 (永山村・安庭村等の 名がある)	館	文	種	類
石丁 中村					年代			
		一九四〇	一八九〇	一八五九	寸			
56		42	78	總高70	高			
90		92		像高50	巾			
					奥行			
					cm			
		調査もれ。 登山者による。			備			考



243



244



247



245

246



249

八、岩手県内の岩手山・岩鷲山信仰碑

概 説

岩手山神社宮司小原實徳氏によると、かつては宮城県本吉郡から毎年参拝に来ていたといふ。本吉郡では「南部の御山は出世の御山、最上の山はハジの山」といふ。男性は結婚前に南部五山に参拝する習わしがあった。南部五山とは石神山・大角牛山・早池峰山（以上遠野三山）、五葉山・岩手山のこと、しだいに岩手山のみへの参拝で済ますようになり、一村を代表して十人ぐらいで参拝し、お札を五百枚ほどいただいて帰って行つた。本吉郡からの代参は遠洋漁業が始まるまで続いたといふ。

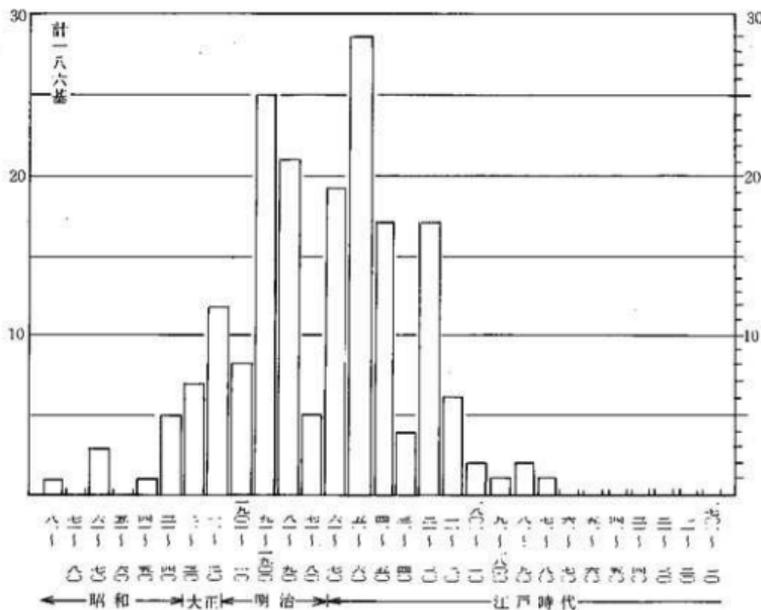
岩手県内一円に岩手山・岩鷲山と刻む石碑が建てられている。この多くは岩手山参拝、代参を記念してその参詣者あるいは講中によって建てられたものである。市町村によって石碑調査には精粗があり、その総数は完全には把握できないが、手元にある資料でまとめてみた。一応その概略はつかめよう。それによると、総数二二八基で、西根町や玉山村が多い。最古は岩手山頂奥宮の明和八年（一七七七）石宝剣で、連続的にみられるのは一七〇〇年代末頃からである。

第三図でみるとその最盛期は十八世紀で、江戸後末期から明治時代である。一八五〇年代は最も多く二九基が造立があつたが、これは丁度岩手山頂に三十三観音石像が建立された時期にあつてゐる。

興味深いのは山田町、千厩町など遠隔の地に古い石碑がみられること、その地方での参拝の実態等は今後の課題とならう。

滝沢村には岩手山地域を除けば意外に少ない。七基で、最古の碑は籬木にある文政七年（一八二四）である。

(第三図) 岩手県内岩手山・岩鷲山碑の造立年代分布



滝沢村の岩手山・巖鷲山信仰碑



明治17年(大釜)



文政7年(篠木)



(一本木)



明治31年(大沢)

岩手県内の岩手山・巖鷲山信仰碑一覽表 (太字の市町村は、恐らく過去済の資料による)

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.	
安代町				浄法寺町	一戸町	二戸市														市町村
明治28	安政3	安政2	嘉永3	明治12	明治4	慶応4	昭和12	昭和3	大正13	大正9	大正4	明治38	文久2	文久1	安政6	安政2	嘉永3	天保3	和暦	
一八九五	一八五六	一八五五	一八五〇	一八七九	一八七一	一八六八	一八三七	一八二六	一九〇四	一九〇〇	一九一五	一九〇五	一八六二	一八六〇	一八五九	一八五五	一八三三	一七三三	西暦	
岩鷲山・田村山				巖鷲山大権現				巖手山				巖鷲山				巖鷲山大権現				主
土沢・額荷社	岩屋	小柳田駒形社	寄木駒形社	宮沢	樋ノ口	結帯	愛宕社	村松八幡社	"	似馬八幡社	上米沢 藤村小原敷	上野沢	白滝七滝	川又大明神平	愛宕山	下斗米大石社	釜屋敷	下斗米	金田一湯田	所在地
③	⑤	⑤	⑤	④	③	○	①	①	①	①	②	①	①	①	①	○	①	②	典拠	
38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	No.	
盛岡市				磐前町				軽米町				久慈市				安代町				市町村
			安政6	弘化5	文政10	文化12			明治44	安政6	文政12	明治25	" 21	明治21	" 30	明治30	明治29		和暦	
			一八九九	一八四八	一八三七	一八一五			九一	一八五九	一八二九	一八九	"	一八八八	"	一八七	一八九六		西暦	
岩手山神社	湯殿山・巖鷲山・若木山	巖鷲山	巖鷲山	巖鷲山	熊野三社・岩鷲山 西国二十三ヶ所供養塔	巖鷲山	岩手山	岩手山神社	巖手山	巖手山神社	巖鷲山	巖鷲山	十和田山神社・岩手山神社	十和田山神社・岩手山神社	十和田山神社・岩手山神社	岩手山神社	岩手山・湯殿山・三峰山	岩鷲山		主
岩手山神社	山岸	藤合神社	上米内庄ヶ畑	盛岡八幡宮	" 田貝	上荒妻愛宕社	晴山	古尾敷	高清水	君成川	上野場	下野場	長内町二子	"	上長内	荒原白山社	中佐井	石神		所在地
⑬	⑪	⑫	⑭	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	典拠	

58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	No.	市町村	
巖手町																						
寛政11								明治35	明治34	明治33	# 4	慶応4	# 5	安政5	嘉永3	文政5	#	#	文政1	和暦		
一七九九								九〇二	一九〇一	一九〇〇	#	一八六八	#	一八五九	一八五〇	一八三二	#	#	一八二八	西暦		
岩鷲山	岩鷲山	岩鷲山・玉東山	巖鷲山	巖鷲山	巖鷲山	巖鷲山塔	岩鷲山	岩手山	岩手山	岩手山	岩鷲山	岩鷲山	岩鷲山	岩鷲山	岩鷲山供養	高上山・岩鷲山・鳥海山 大峰山・白山・大権現	岩鷲山供養	湯殿山・月山・羽黒山 金毘羅山・玉東山・岩鷲山	岩鷲山供養	岩鷲山供養		
荒木田	細沢	丹藤	秋浦	大平追分	榑場	川口松原	久保	沼袋	沼袋外口	雷浦白旗社	黒内	栗木田	大渡	土川	一方井	川口稻荷社	打越	川口稻荷社	栗木田	所在地		
19	13	13	13	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	14	13	13	13	典拠	
78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	No.	市町村	
西根町																						
文久1	万延2	安政6	安政5	安政4	安政2	嘉永7	# 6	嘉永6	嘉永4	嘉永2	弘化4	弘化2	天保14	天保12	天保3	文政13	文政10	文政7	文政6	和暦		
一八六一	一八六一	一八五九	一八五八	一八五七	一八五五	一八五四	#	一八五三	一八五一	一八四九	一八四八	一八四三	一八四二	一八四一	一八三三	一八三二	一八二七	一八二四	一八二三	西暦		
岩鷲山	湯殿三山・巖鷲山・金毘羅山	岩鷲山	湯殿二山・巖鷲山・鳥海山	岩鷲山塔	岩鷲山	岩鷲山・玉東山塔	勢至・岩鷲山塔	金毘羅山・岩鷲山	岩鷲山	巖鷲山	湯殿三山・岩鷲山・鳥海山供養	金毘羅大権現塔・岩鷲山・二十三夜塔	湯殿三山・巖鷲山・玉東山	巖鷲山・早池峯山・玉東山塔	巖鷲山・岩鷲山供養	湯不動明王・金毘羅山・岩鷲山	鳥海山・岩鷲山供養	湯殿三山・巖鷲山・鳥海山	正一位巖鷲山供養	巖鷲山・鳥海山		
平笠・谷地中	大更・松川	大更・西沼	平館・堀切社	大更・山後	田頭・開河松	大更・波川	大更・岡村	大更・中間	平館・共新	田頭・茨島	田頭・旗腰	大更・大石平	大更・中間	大更・西沼	寺田留の沢	寺田川原日	大更大石平	大更金毘羅	平笠二地割	所在地		
13	13	17	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	典拠	

No	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	市町村	
	文久3	# 3	# 3	元治1	# 1	慶応1	# 2	# 2	明治13	(# 17)	# 18	# 18	# 19	# 20	# 21	# 22	# 23	# 26	# 26	西暦		
	(一八六〇)	"	"	(一八五四)	"	(一八六五)	(一八六六)	(一八六六)	(一八八〇)	(一八八四)	(一八八五)	(一八八六)	(一八八七)	(一八八八)	(一八八九)	(一八九〇)	(一八九三)				西暦	
	岩鷲山供養	岩鷲山	岩鷲山	岩鷲山・巖鷲山	鳥海山・巖鷲山	巖鷲山	鳥海山・巖鷲山	鳥海山・巖鷲山	鳥海山・巖鷲山	鳥海山・巖鷲山	岩手山神社	岩手山神社	岩手山神社	岩手山	岩手山神社	岩手山神社	岩手山神社	岩手山	岩手山	岩手山	主	
	寺田・川原目	田頭・大宮社	平館・森子	田頭・高宮	# 中村	平館・吉祥寺	田頭・稲荷社	# 白山	大更・北切	# 白壁	寺田・荒木田	大更・白屋	平館・宮田社	# 留石	# 宮田社	平館光繁稲荷	田頭・中村	"	平館・樫沢	寺田・荒木田	所在地	
	118	117	116	115	114	113	112	111	110	108	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	西暦	
																					No	
																					西暦	
																					市町村	
	# 27	(# 28)	# 29	# 29	# 30	# 30	# 31	(# 32)	昭和4	# 25											和暦	
	(一八九四)	(一八九六)	(一八九六)	(一八九七)	(一八九七)	(一八九八)	(一八九九)	(一九〇〇)	(一九〇〇)	(一九〇〇)											西暦	
	巖鷲山	金尾羅山・岩手山	岩手山神社	岩手山神社	岩手山神社	巖手山	巖手山神社	巖手山神社	巖手山神社	巖手山神社	巖手山神社	巖手山神社	巖手山	巖手山	巖手山	巖手山	巖手山	巖手山	巖手山	巖手山	主	
	出頭・間羽松	平館・長根	平館・樫沢	寺田・谷地中	田頭・大宮社	大更・中開	平館・樫沢	大更・大石平	田頭・東慈寺	寺田・新山	寺田・上寺田	平館・新山	"	"	# 山崎	大更・ツ森	田頭・間羽松	平館・ワシ森	# 新山	滝沢	元御所	所在地
	118	117	116	115	114	113	112	111	110	108	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	西暦	

No.	市町村	和暦	西暦	主 銘	所在地	典拠
136	滝沢村	明治17	一八八六	巖鷲山	大釜	158
137		安政3	一八六六	巖鷲山(追分石)	分レ	157
138		嘉永9	一八二八	岩鷲山	谷地上	156
139		弘化4	一八二二	巖鷲山	王子	155
140	玉山村	文政7	一八二四	本助藤田村神社 正一位 岩鷲山	篠木	154
141				岩鷲山・玉東山	好摩	153
142				早池聖山・若手山・玉東山	巻掘	152
143				巖手山・般若山	宇田	151
144				巖手山	百目木	150
145				岩鷲山・玉東山	松内在家	149
146				岩手山神社	生田	148
147				岩手山神社		147
148				岩手山神社	永井沢	146
149				岩手山神社	好摩	145
150	巖手山 (各岩手山神社 山頂)	方延1	一八二〇	岩鷲山	永井沢	144
151		明治25	一八六二	岩手山大神・玉東山大神	大林	143
152				巖手山	駒木場	142
153				巖手山	篠ヶ川原	141
154				巖手山	上西根	140
155				巖手山	町場	139
156				巖手山・羽黒山・月山・湯殿山		
157				巖手山		
158				巖手山		
159				巖手山		
160	宮古市	昭和4	一八二〇	巖手山	昭和中	148
161				巖手山	大正5	147
162				巖手山	大正5	146
163				巖手山	大正5	145
164				巖手山	大正5	144
165				巖手山	大正5	143
166				巖手山	大正5	142
167				巖手山	大正5	141
168				巖手山	大正5	140
169				巖手山	大正5	139
170	滝沢村	昭和8	一八二〇	巖手山	昭和8	148
171				巖手山	大正5	147
172				巖手山	大正5	146
173				巖手山	大正5	145
174				巖手山	大正5	144
175				巖手山	大正5	143
176				巖手山	大正5	142
177				巖手山	大正5	141
178				巖手山	大正5	140
179				巖手山	大正5	139
180	巖手山 (各岩手山神社 山頂)	明治31	一八八六	巖手山	明治31	148
181				巖手山	大正5	147
182				巖手山	大正5	146
183				巖手山	大正5	145
184				巖手山	大正5	144
185				巖手山	大正5	143
186				巖手山	大正5	142
187				巖手山	大正5	141
188				巖手山	大正5	140
189				巖手山	大正5	139
190	巖手山 (各岩手山神社 山頂)	明治12	一八七八	巖手山	明治12	148
191				巖手山	大正5	147
192				巖手山	大正5	146
193				巖手山	大正5	145
194				巖手山	大正5	144
195				巖手山	大正5	143
196				巖手山	大正5	142
197				巖手山	大正5	141
198				巖手山	大正5	140
199				巖手山	大正5	139
200	巖手山 (各岩手山神社 山頂)	明治12	一八七八	巖手山	明治12	148
201				巖手山	大正5	147
202				巖手山	大正5	146
203				巖手山	大正5	145
204				巖手山	大正5	144
205				巖手山	大正5	143
206				巖手山	大正5	142
207				巖手山	大正5	141
208				巖手山	大正5	140
209				巖手山	大正5	139

178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	No.	
矢巾町			紫波町		釜石市		遠野市				山田町						岩泉町		和暦	市町村	
安政5	# 2	嘉永1	文政13				弘化4			昭和15	元治2	安政2	# 6	# 6	嘉永2	弘化3	天保10	寛政2	大正6	和暦	
一〇六	一〇六	一〇六	一〇六				一〇七			一〇七	一〇七	一〇七	#	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	西暦	
岩鷲山大権現	巖鷲山・早池峯山・南島山	巖鷲山大権現	巖鷲山・早池峯山・南島山	巖鷲山・早池峯山・玉東山	巖鷲山・早池峯山・玉東山	巖鷲山	巖鷲山・早池峯山・石神山	巖鷲山・早池峯山・志和稲荷神社	主 銘												
樺屋	樺屋	和味	下連山			遠石町	上郷平倉	織笠	馬指野	織笠	織笠	馬指野	馬指野	手前	大浦	織笠	田子ノ木口	田子ノ木	長安寺	所在地	
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	典拠	
188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	都南村										矢巾町	No.
花巻市																			和暦	市町村	
明治2	嘉永1	天保15	大正	# 36	# 23	# 16	# 14	# 14	# 14	明治12	慶応4	嘉永4	# 10	# 9	文政8		# 44	明治3	和暦		
一〇六	一〇六	一〇六		一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	西暦	
巖手山・早池峯山	巖鷲山	巖鷲山大権現	巖鷲山・金毘羅大権現・湯殿山	鳥海山・湯殿山・岩手山	岩鷲山・湯殿山・鳥海山	鳥海山・湯殿山・岩手山	鳥海山・湯殿山・岩手山	鳥海山・湯殿山・岩手山	鳥海山・湯殿山・岩手山	鳥海山・湯殿山・岩手山	鳥海山・湯殿山・岩手山	鳥海山・湯殿山・岩手山	巖鷲山	巖鷲山大権現	巖鷲山大権現	巖鷲山大権現	巖手山大神・金神神社	岩手山	岩手山大神	主 銘	
宿	下似内	四日町	津志田	下飯岡	上羽場	湯沢	羽場	津志田	津志田	下飯岡	上飯岡	#	下飯岡	飯岡	大ヶ生	上飯岡	太田	津岡	所在地		
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	典拠	

No.	市町村	和暦	西暦	主	所在地	典拠
218	東和町			岩鷺山・早池峯山	中山	②
217	大迫町			(不明)	外川目	③
116	大迫町	羽治		(不明)	内川目	③
215	大迫町	嘉永7	(一八二四)	早池峯山・巖鷺山大権現	亀ヶ森	④
214	大迫町	文政		(不明)	外川目	④
213	石鳥谷町	明治28	(一八九一)	旅手山	大瀬川	⑤
212	石鳥谷町	文化7	(一八二二)	巖鷺山	新堀	⑥
211	石鳥谷町	享和1	(一八二一)	巖鷺山	北瀬田	⑥
210				岩手山	北俣間	⑦
209				岩手山・早池峯山	中根子	⑦
208				岩手山・早池峯山	鍋谷	⑧
207				早池峯山・巖手山	北万丁目	⑧
206				岩手山・早池峯山	中根子	⑨
205	花巻市			巖手山・早池峰山	東原敷	⑨
204	花巻市			巖手山	新田	⑩
203	花巻市			古峯神社・岩手山	北湯口	⑩
202	花巻市			巖手山	白	⑪
201	花巻市			巖手山・早池峯山	中根子	⑪
200	花巻市			岩鷺山	金矢	⑫
199	花巻市			岩手山	横志田	⑫
						Na
228	種市町	大正12	(一九二二)	岩手山の無い市町村(はばき番調査済)は次のとおり。 野田村・菅代村・川井村・江釣子村・前沢町・金ヶ崎町・胆沢町・衣川村・一関市・東山町・川崎村・大船渡市・住田町・三陸町	滝沢・甲	⑬
227	種市町	明治17	(一八八六)	出羽二山・岩手山	上折柴	⑭
226	種市町	安政5	(一八二八)	早池峯山・岩手山	黄海	⑮
225	種市町	昭和8	(一九三三)	早池峯山神社	小梨	⑯
224	千厩町	文政7	(一八二四)	巖手山・早池峯山	南小梨	⑰
223	大東町	大正7	(一九一八)	岩手山神社	大久保	⑱
222	花巻町	不明		岩手山・早池峰山	日形	⑲
221	花巻町	不明		岩手山・早池峰山	金沢	⑳
220	江刺町	不明		岩手山・早池峰山	老松	㉑
219	江刺町	天保5	(一八三四)	早池峯・岩鷺山大権現	瑞穂寺	㉒

(注) 1. この一覧表は「石碑」のみの番上げであり、「石燈籠等の「建造物」や、石仏等の「像等」は含まない。但し、石宝剣は「石碑」に準ずるものとして扱入れた。

2. 「岩手山」の範囲は、各岩手山神社から山頂までとした。

本文では、柳沢口の「分レ」、「王子」を「岩手山」に入れて説明したが、この表では「滝沢村」に入れている。

3. 「典拠」欄の番号は次頁のとおりである。

但し、無番号の○印は筆者調査によることを示す。

(第十一表) 岩手山・岩鷲山信仰碑の造立年代上位二〇

No.	市町村	和暦	西暦	主 銘	所在地	典拠
1	岩手山	明和8	一七二〇	巖鷲山宝鏡(石宝剣)	山頂奥宮	〇
2	〃	天明6	一七二六	正一位岩鷲山(石宝剣)	山頂奥宮	〇
3	山田町	寛政2	一七五〇	金民羅山・早池峰・岩鷲山	田子ノ木	〇
4	西根町	一七九	一七九〇	岩鷲山	荒木田	②
5	石鳥谷町	享和1	一八二〇	巖鷲山	北滝田	⑤
6	〃	文化7	一八六〇	巖鷲山	新堀	⑥
7	盛岡市	12	一八七〇	巖鷲山	上麗妻愛宕社	⑧
8	岩手町	文政1	一八六〇	巖鷲山供養	栗木田	⑨
8	〃	1	〃	湯殿山・月山・羽黒山 金民羅山・玉東山・岩鷲山	川口稲荷社	⑩
8	〃	1	〃	巖鷲山供養	打越	⑪
11	岩手山	2	一八六九	奥の富士	柳沢口改所	〇
12	〃	3	一八七〇	巖鷲山	山頂お鉢	〇
13	岩手町	5	一八七三	高上山・岩鷲山・鳥海山 大崎山・白山・大権現	川口稲荷社	⑬
14	西根町	6	一八七三	正一位岩鷲山供養	平笠二地割	⑭
14	岩手山	6	〃	正一位岩鷲山大権現 新社座落待小成建立(石宝剣)	平笠不動	〇
14	宮古市	6	〃	岩鷲山大権現	振ヶ崎	⑰
17	滝沢村	7	一八七四	早池峰山人権現	鎌木	⑱
17	西根町	7	〃	奉勸蒲田神社 正一位岩鷲山	大更・金民羅	⑲
17	千厩町	7	〃	早池峰大権現 巖鷲山大権現	市小梨	⑳

各市町村の石碑資料の典拠一覧(太字はほぼ悉皆調査済の市町村である)

二戸市 ①黒沢恒雄「福岡の石碑」、②同追加筆記資料

一戸町 ③一戸町教委「一戸町の石造文化財2」(拙稿)、筆者調査

浄法寺町 ④浄法寺町教委中村裕氏調査資料

安代町 ⑤岩手県立博物館調査資料

久慈市 ⑥久慈市教委「久慈市の石碑」(拙稿)

軽米町 ⑦軽米町教育委員会調査資料(継続中)

⑧東洋大学「晴山の民俗」

野田村 野田村教委「野田の石碑」になし。

盛岡市 ⑨盛岡市教委調査資料 ⑩岩手放送「岩手山」

岩手町 ⑪岩手県教委「歴史の道 小本街道」 ⑫同「沢内街道」

西根町 ⑬拙稿「西根町の石造文化財」(町教委)

磐石町 ⑭磐石町教委「磐石の石碑」

玉山村 ⑮玉山村教委「玉山村の石碑」

滝沢村 ⑯今回の調査資料 ⑰「滝沢村誌」

岩手山 (各登山口の岩手山神社)山頂)全て今回の調査資料による

宮古市 ⑱宮古市教委「宮古市の石碑」

岩泉町 ⑲「岩泉地方史」

山田町 ⑳小島俊一「陸中海岸の石仏」 ㉑「歴史の道・浜街道」

普代村 ㉒普代村教委「普代の石碑」になし。

川井村 「川井村郷土誌」になし。

遠野市 ㉓遠野市教委調査資料

釜石市 ㉔「歴史の道・浜街道」

紫波町 ㉕「紫波町史」

矢巾町 ⑤矢巾町教委『路傍の折り』
都南村 ⑦都南村教委『都南の石碑』

花巻市 ②『花巻市文化財調査報告書第七集』 ⑧『同第八集』

石鳥谷町 ⑤菊池邦雄『石碑の歴史』（広報いしどりや第二九三号）

大迫町 ④『大迫町史・民俗』
東和町 ③東和町教育委員会調査票

江釣子村 江釣子村教委『江釣子村石碑分布調査報告書』になし。
水沢市 『水沢市史6民俗編』に、存在はするが基数等の記載なし。

江刺市 ⑤『歴史の道・盛街道』
前沢町 鈴木透氏調査資料になし。

金ヶ崎町 『金ヶ崎町史』になし。
胆沢町 胆沢町教委『胆沢之古碑』になし。

衣川村 衣川村教委『衣川の社寺と古碑』になし。

一関市 『一関市史』阿部四郎『萩荘の石碑について』（奥南史談会『研究紀要』第十二集）になし。

花泉町 ④『花泉町史』

東山町 東山町文化財調査委員会（『碑石』調査報告書）になし。

大東町 ⑤大東町教委『大東町の古碑』
千厩町 ⑥千厩町教委『千厩町の古碑』

藤沢町 ⑦藤沢町教委『第8回文化財調査記録』
室根村 ⑧室根村教委『室根の古碑』

川崎村 『川崎村の石造文化財第二部』原稿（拙稿）になし。

大船渡市 大船渡史談会『路傍の信仰』になし。

住田町 根来功範『住田風土記4集』『路傍の古碑』になし。

三陸町 片山三郎『ふるさとの神さま佛さま』になし。
種市町 ⑩種市町教委『種市町の石碑（II）』

参考・引用文献

『巖手山誌』小原実義（岩手山神社社司）著 昭和十五年刊

『岩手山』岩手放送株式会社発行 昭和四十八年
『岩手史叢』『内史叢』岩手県文化財愛護協会 昭和四十九・五十年刊

『巖手郡誌』岩手県教育会岩手郡部会 昭和十六年
『滝沢村誌』福田武雄著、滝沢村発行 昭和四十九年

『滝沢村の文化財』滝沢村教育委員会 昭和六十年
『磐石町史』磐石町 昭和五十四年

『磐石蔵代日記』磐石町誌史料第一集 磐石町教育委員会 昭和三十八年
『岩手県史』第五卷 岩手県 昭和三十八年

『南部叢書』『盛岡砂子』『邦内郷村志』『旧蹟遺文』『奥々風土記』

太田孝太郎編 東洋書院発行 昭和五十七年

『西根町の石造文化財』拙稿 西根町教育委員会発行 昭和六十年

『岩手山登山案内図』一足であるいた実地踏査報告書』小野寺時美 昭和五十八年

岩手山の石造文化財

昭和六十一年三月三十一日発行

著者・編集 大 矢 邦 宣

発 行 滝沢村教育委員会

〒331-2 岩手県岩手郡滝沢村大字編岡
第十一地割字中編岡五五番地
TEL. 〇・九六（八四）二二一一

印 刷 川口印刷工業株式会社
盛岡市木町通二丁目一三の八